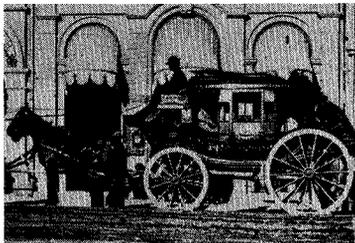
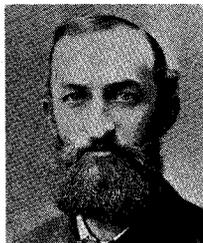
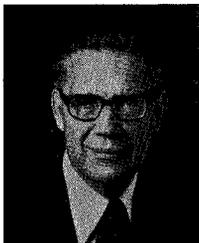




聖徒の道

8

1979



末日聖徒イエス・キリスト教会

大管長会

スペンサー・W・キンボール
N・エルドン・タナー
マリオン・G・ロムニー

十二使徒評議員会

エズラ・タフト・ベンソン
マーク・E・ピーターセン
リグランド・リチャーズ
ハワード・W・ハンター
ゴードン・B・ヒンクレー
トーマス・S・モンソン
ボイド・K・パッカー
マービン・J・アシュトン
ブルース・R・マッコンキー
L・トム・ペリー
デビッド・B・ヘイト
ジェームズ・E・ファウスト

顧問

M・ラッセル・バラード・ジュニア
レックス・D・ピネガー
ヒュー・W・ピノック

教会誌編集主幹

M・ラッセル・バラード・ジュニア

国際機関誌

ラリー・ヒラー (編集主幹)
キャロル・ラーセン (編集副主幹)
ロジャー・ギリング (デザイナー)

「聖徒の道」

赤松成次郎 (翻訳部長)

も く じ

実践の宗教	N・エルドン・タナー	1
日々の恵み		4
労働の尊厳	ヒーバー・J・グラント	7
質疑応答		15
鍵とコンタクトレンズと祈り	ウィリアム・G・ダイヤー	17
小さなお友だちへ		21
マイケルの手紙	マウナ・ラエ・アレン	22
何かがかわった	アナベル・スムラ	24
せかいで一番するどいもの	ルイズ・ハード	26
ダンの什分の一		28
系図と遺伝学		29
ハラムから学ぶ教訓	ブルース・R・マッコンキー	32
問題を前に、恥じてはならない	テリー・J・モイヤー	37
父の言葉	ヘンリー・アイリング	41
ローカル・ニュース		44

表紙の説明

ジョン・ヘイフェン画「収穫」

聖徒の道 8月号

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
東京都港区南麻布5-10-30
印刷所 株式会社 精興社
配 送 東京ディストリビューション・センター
東京都世田谷区上用賀4-9-19
定 価 年間予約1,700円 1部150円
海外予約1,700円

INTERNATIONAL MAGAZINE PBMA0609JA Printed in Japan

郵便振替 口座番号 東京0-41512

口座名 末日聖徒イエス・キリスト教会
東京ディストリビューション・センター

大管長会メッセージ

「あな

たは教会のこととなったら、自分の仕事や社会的なことはさておき、何でもあれなざるし、どこにでもお出かけになるようですが、一体何があなたをそのようにさせるのですか。」

私はこれまで何度かこのような質問を受けてきた。この質問に対する答えの中で、私は、教会の仕事は主のみ業であって、それは実際にイエス・キリストによって導かれていることを話し、そして教会の仕事以上に大切に、報いの多い仕事はないという証を必ず付け加えるようにしている。それに対して、多くの場合、私も宗教についてそういう風に考えられるといいのですが、という答えが返ってくる。そこでそのような人々に対して、私はこの福音が真実であり、救いと永遠の生命に至る道であるということを知り、自分自身で知る方法

を教えるようにしている。

この宗教のどこに、心の正直な人に探求心を起こさせるほど強く訴えるものがあるのだろうか。教会がこれほどまで急速に発展し、全世界で多くの改宗者を出しているのはなぜだろうか。これからその理由を幾つかあげてみよう。

ほとんどの人が一番求めていることは、幸福と心の平安である。人は幸福で心の平安がある時、最も安定した生活ができて、問題や試練に遭ってもそれに適切に対処することができる。賢人が言っているように、自分が起こるかではなく、それにどのように対処するかによって人生は違ってくるのである。ここに、宗教が私たちの生活において重要な役割を果たしている理由がある。

はじめに、神はアダムとイヴを創造し、彼

実践の宗教

第一副管長

N・エルドン・タナー



らに指示、すなわち戒めを与えられた。そして、ふたりの幸福は戒めに対する従順さにかかっていると言われた。この末の日においても、主は私たちに対して、「汝らわが言うところを行わば、主なるわれこれに対して責任あり。されど、汝らわが言うところを行わずば汝ら何ら約束を受けず」（教義と聖約82：10）と、まったく同様のことを言っておられる。

私たちは宗教、言い換えれば福音を通して戒めとは何か、神は私たちに何を望んでおられるか、また神が私たちのために用意しておられるものは何かを学ぶことができる。私はよくだれに対してもこう問いかけてみる。イエス・キリストの福音の中に、私たちの隣人や善良な市民を幸福と成功に導き、愛し敬い、やさしく思いやる気持ちにさせないものがあるだろうか、と。私たちがそのような特質を身につけられないのは、福音に欠点があるからではない。人々が求められている生活をしていないからである。

イエス・キリストの福音は、人の存在が永遠であることを教えている。人はこの地上に来るに先立ち霊として存在し、死後も復活して、現世の位をどのように保ったかに応じて定められた場所に住むということである。すべての人は、神と永遠に住むか、あるいは神のみ前から断ち切られるか、いずれをも自分

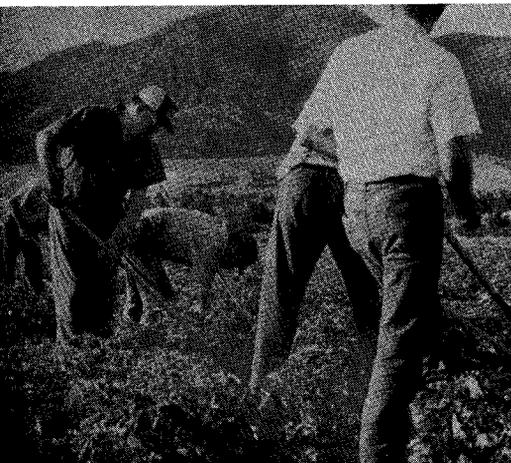
で選ぶことができる。

福音の原則のひとつに、家族は永遠の単位として続くという教えがある。真実の愛で結ばれている夫婦にとって、聖なる神殿で執り行なわれる特別の儀式を通して夫婦が今も永世にわたっても結び固められ、さらにそのふたりの間に誕生した子供たちと永遠に住むことができるという原則を知ることは、何よりの慰めである。これほど美しい原則がほかにあるだろうか。

実践の宗教は、教会員の霊的な福利はもちろん、物質的な福利にも備えている。教会のプログラムを通して、すべての会員は緊急時のために必需品を蓄える計画に参加するように勧められている。これまでたびたび、寝具や家具、食糧、医療品などの日用品が、災害を被った人々を助けるために世界各地に送られてきた。私たちは兄弟の守り手であるという神の戒めを信じている。

健康で幸福な生活を営むために、人はバランスの取れた生活をしなければならない。イエス・キリスト教会では、キャンププログラムをはじめ、スポーツ、演劇、ダンス、音楽祭など、健全なレクリエーションやその他の活動が活発に行なわれている。また教会員は、手工芸やホームメイキングの技術と同様に、すべての文化・芸術の分野でも、その力を伸ばすように奨励されている。そのほか適切な食生活と適度な運動によって健康を管理するようにとも教えられている。

私たちには、肉体を清く健康に保てるように、「知恵の言葉」が与えられている。「知恵の言葉」は、健康に害のあるものを摂取しないように勧告している。私たちは純潔を尊び、今日世の中に蔓延している不品行、道徳の低下を非難するものである。私たちは神を畏れる者として一致団結し、世の人々をボルノや墮胎、同性愛、その他常軌を逸した性的行為の罪から人々を救う運動を熱心に展開している。



私たちは、神の栄光は英知であると信じている。私たちが小・中・高等学校や大学を経営しているのは次のような目的があるからである。「汝らの理解する必要ある理論と原理と、教義と福音の律法と、神の王国に就けるすべての事は更に完全に教える。

また天にも地にも地の下にも関わりあること、またすでに起りたること、今有ること、近く必ず起らんとすること、また国内に有ること、国外にあること、また戦争、諸国民の葛藤、地上に下る審判、而して国々と王国とに就ける知識などもまた然り。」(教義と聖約 88：78—79)

私たちはまたこのようにも命じられている。「富を求めずして智慧を求めよ。さらば見よ、神の奥義は開かれ、それより汝ら富める者とせらるべし。見よ、永遠の生命を有つ者は富めるなり。」(教義と聖約 6：7)

もし私たちが祈りによって主を求め、主の戒めを守るならば、人生の意義と目的をよく理解することができるであろう。そして、主が言っておられるように、神の奥義が明らかにされるはずである。私たちに、真理と義へ導いてくれる生ける予言者がいる。私たちは実に幸せな民である。聖書を読み、聖書の教えを受け入れている人は大勢いる。そして彼らは、かつて予言者が人々の中にいて、神の教えに従わなければ危険が来ることを教え警告していたことを信じている。ところが、その同じ人々が、今日私たちの中に神の代弁者つまり予言者がいて、私たちにイエス・キリストの教えに従って生活するように警告し、教え導いていることを知らないし、理解もしていないのである。しかし、人類はこのイエス・キリストの名前によらずして救いを得ることはできないのである。

私たちはまた啓示によって、人間が神の霊の子供であることを知っている。神は独り子をこの世に送り、私たちのために偉大な贖いの犠牲を払わせるほどに私たちを愛して下さ

った。この事実を知っていることは何と素晴らしいことだろうか。イエス・キリストの犠牲のお陰で私たちは墓からよみがえり、忠実さの程度に応じてそれぞれの光栄を与えられるのである。

人類の歴史上何度かあったように、この末の時代にも、再び父なる神と御子イエス・キリストは、私たちが御二方の特質や属性を知り理解できるように御自身を顕わして下さった。そして父なる神と御子イエス・キリストは、体も手足も感情も持ちたまう、光栄を受けられた御方であり、しかも私たちはその神の形にかたどって創造されたことを示して下さった。それによって、私たちは、神と御子イエス・キリストが実在し、それぞれ別個の御方であることを知ることができた。また御子を通して父なる神に祈ることができ、御二方は私たちの祈りを聞いて答えて下さること、さらに私たちを深く心にかけておられ、私たちの幸福と成功を望んでおられることを知ることができた。

そのために、父なる神と御子イエス・キリストは、私たちに組織された教会を与え、教えと生活の模範を示して下さっている。教会は世界で最も素晴らしい兄弟愛で結ばれている神の神権者によって管理されている。また姉妹たちのためには扶助協会が組織され、女性のために大きな貢献をしていることが世界中で認められている。また青少年を対象にしたプログラムもあれば、小さな子供たちのための初等協会もある。

末日聖徒イエス・キリスト教会にはすべての人々に益をもたらすもの、つまりすべての人が参画できる仕事がある。教会の強さは教会員一人一人の証にかかっており、この証は信仰と奉仕を通して得られるのである。まさに、救い主が弟子たちに語られた言葉通りである。「あなたがたはその実によって彼らを見わけるのである。」(マタイ 7：20)

手話によるレッスン

スティーブン・A・ウォルフ

私が伝道中に知り合った同僚のひとりに、ノーラン・バーガソンという立派な長老がいました。別に人が嫌いなわけでも、ユーモアがないわけでもないのですが、何となく近づきにくい人でした。大抵の人は彼を無口で真面目一方の青年と受け止めていたようです。

しかし私にとっては、気の合う同僚でした。自分たちの働きに満足のゆく成果が得られた時など、過去の経験を互いに話しあうことが

よくありました。そんな屈託のない彼の話の中に、私が決して忘れることのできないひとつの話がありました。それはバーガソン長老の素晴らしい献身ぶりを物語っています。

ある時、彼はまだ教会員の少ない小さい支部で伝道していました。そこに耳の聞こえないひとりの婦人がいました。彼女は何年もの間、周囲の人々にこの教会に入りたいことを告げていたのです。しかし、バプテスマを受けることができませんでした。レッスンを教えてくれる宣教師がいなかったからです。伝道部の規則で、福音に改宗したい人は皆、バプテスマの前に6回のレッスンを宣教師から学ぶ必要があると決められていました。しかしこの婦人は手話でしか話すことができません。宣教師はだれも手話ができないため、彼



女はだれからもレッスンを受けられずにいたのです。そんな彼女に出会ったのが、バーガソン長老でした。バーガソン長老は彼女が「奇しきみわざ」を読み、すでに福音を理解していることを知りました。そこで彼は、彼女から手話のサインを記したカードをもらいました。

バーガソン長老は呑込みの早い方ではありませんでしたが、主のみ業を行ないたいという強い望みを持っていました。その晩、彼はアパートに帰ると、アルファベットの一字一字について手話でどう表現するのか一生懸命覚えました。そして翌日、延々と6時間もかけて最初のレッスンを手話で教えたのです。まず、バーガソン長老がひとつひとつの言葉を指で表わし、婦人が指で答えるのを待つというまったく忍耐のいるレッスンでした。

バーガソン長老はそれだけでも十分な祝福を受けたはずですが、彼はさらに図書館に出かけて行き、手話の本を借りて勉強しました。レッスンは回を重ねるごとによくなってきました。そして最後のレッスンをする頃には、口で話すのとほとんど変わらない位の時間でレッスンができるようになりました。

私はバーガソン長老が示してくれた模範を考えるたびに、彼のような素晴らしい同僚から学べたことを感謝せずにはおられません。また、自分にもそのような熱意があったら、どれだけ多くの兄弟妹姉の手助けをすることができただろうかと考えると、身につまされる思いがします。

スティーブン・A・ウォルフ

(学校教師。アラスカ・アンカレッジ伝道部

ホーマー支部若い男性会長兼祭司定員会アドバイザー。ノーラン・バーガソン兄弟はユタ州立訓練所で聾啞者の教師として、現在手話を教えている。)

「しかし、彼は耳が不自由だ」

ネット・B・コムス

数年前、第二副監督であった時、私は、執事定員会の会長にどの少年がふさわしいか判断しかねて悩んでいました。監督から、一人一人の少年についてよく祈って考え、推薦を出すようにと言われ、13歳の3人の立派な少年たちの中からようやくひとりを決めることになりました。

ところが、その中からひとりを選ぼうとしても、心の中に燃えるような確信が得られないのです。そこで私はもう一度定員会の少年たちをじっくり見直してみました。すると、最初見過ごしていたケビンのことが心に浮かんできました。ケビンのことは何年も前からよく知っていて、資格は十分にあります。定員会のみんなども仲が良く、家族からも信頼されています。

「しかし、彼は耳が不自由だ。」そう言って私は、最後の決定をためらってしまいました。しかし、ただそれだけの理由で彼に教会の責任を与えないということは不公平です。話す機会を与えなければ話を上達させることはで

きないですし、伸ばす機会を与えなければ指導力は伸びないからです。

ケビン新しい執事定員会会長に推薦することについて祈った時、私は確信を得ました。そしてそのことを監督に伝えました。監督もその召しに確信を持ち、私はケビンの両親にそれを伝える役を仰せつかりました。ケビンの両親はその召しを喜び、息子を信頼していると言いました。ケビンも召しを受け入れ、頑張りたと言いました。彼は天父の愛を感じたことでしょう。このようにして、ケビンと家族と監督、教師たち、定員会アドバイザー、そしてワード部全体に親密な関係が築かれたのです。

それからの7年間、ケビンの身の上に素晴らしい変化が起きました。彼は権能を委任すること、話すこと、奉仕活動に参加すること、聖餐を祝福することによって積極性を発揮しました。そして、若い人々に良い影響を及ぼしました。彼がワード部の少年ソフトボールチームに加わったその年、チームはステーク部と地区、地域の大会で優勝し、地域大会では見事スポーツマンシップ賞を得ました。どの試合でも、ワード部の会員たちが送る声援は彼の耳には届きませんでした。彼は愛と声援を心に感じていました。そして、ケビンは自分が必要とされていることを感じ、その力を出し切ったのです。

ケビンが執事定員会の召しを受けた2年後、私は監督に召されました。私は何回となく折を見てはケビンに伝道の話をしました。しかし、彼はまず大学を卒業することが先で、自

分のような状態では伝道に出られないと考えていました。そんな時、ケビンにとっての最後のアロン神権活動であるキャンプファイアが開かれました。その証会でケビンは立ち上がり、神が生きておられること、自分は監督に言われたように伝道について祈ってみるつもりであることを証しました。その結果、彼は主からの答えを得ました。早速私は必要な書類を用意しました。それから数週間後のある晩、ケビンが私の家へ立ち寄り、スペンサー・W・キンボール大管長から届いたばかりの伝道の召しを告げる手紙を見せてくれました。

彼は感激していました。私も喜びました。彼はその召しが天父からのものであるという確信を持っていました。彼が伝道に出発する日、空港に立つ彼の笑顔には涙が流れ、声は震えていました。「本当にいろいろとありがとうございました。」ケビンは言葉少なに語りました。

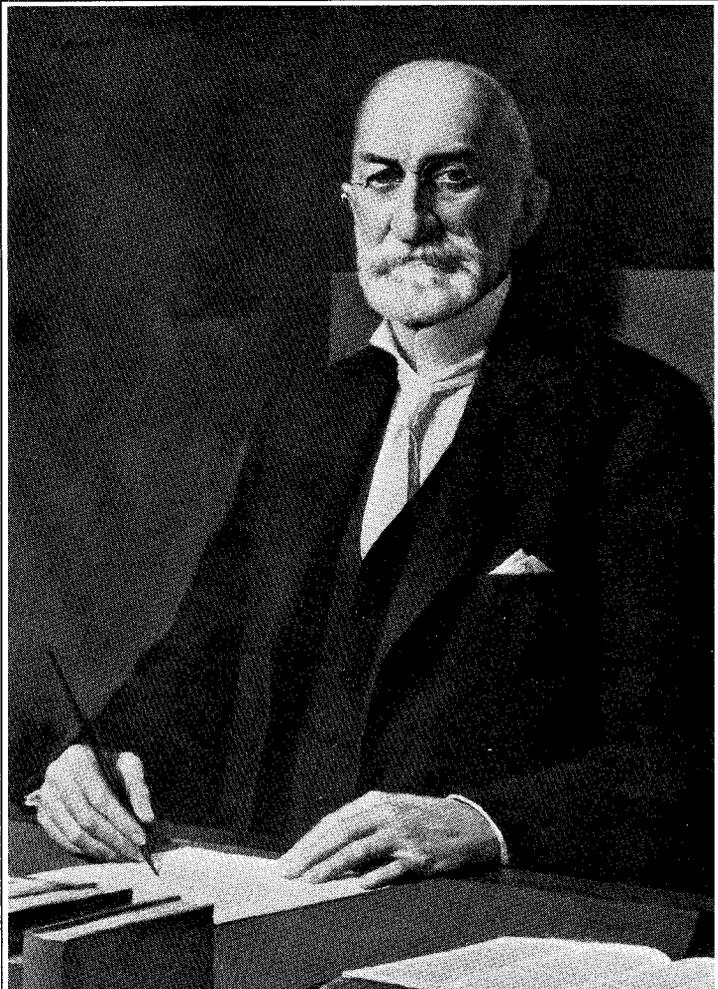
その時私は、大抵の障害は気の持ちようで解決できることを知ったのです。そしてケビンの御両親と友人たち、指導者たち、そして愛する教会員の皆さんに心から感謝しました。彼らはケビンに、みんなと同じ素晴らしい神の子供として接してくれたのです。

私は、ケビンのお陰で、私たちの交わりはただ言葉による言語や目や耳によって通じ合うことだけでないことを知りました。むしろ私たちは霊的な感覚によって、語り、見聞きするのです。身体に障害があるからといって、私たちを天父とそのみ業から遠ざけ、主が私たちのために取っておかれた喜びから私たちを隔絶させることはできないのです。

労働の尊厳

第7代大管長

ヒーバー・J・グラント





末日聖徒イエス・キリスト教会第7代大管長ヒーバー・J・グラントは、1856年11月22日、ジェテダイア・モーガンおよびレイチェル・リッジウェイ・アイビンス・グラントの息子として、ソルトレーク・シティで生まれた。1882年10月16日、使徒に聖任され、1918年11月23日、大管長に支持される。グラント大管長の生涯には、親が子に大切な徳を教える上で役立つ数多くの貴重な教訓が秘められている。以下は1899年の「インプローブメント・エラ」誌に掲載されたグラント大管長の話の抜粋である。

私は、能力の限りを尽くして働くことが必要であること、しかもそのように働けば決して落胆することがないことを若人に理解させようと努めてきた。ランバート侯爵夫人はかつてこう語った。「青年にとって、自分には大したことはできないのだという遠慮ほどつまらないものではありません。そんな遠慮は、努力を妨げる気弱な心でしかないからです。むしろ不可能なものは何もないと自分に言い聞かせる人々の方が、優れた才能を発揮し、立派な功績を上げます。」

「たって行いなさい。どうか主があなたと共におられるように。」(歴代上22:16)

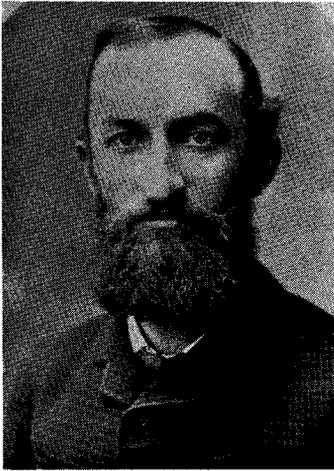
「日常生活で自分の目の前にあることを行なうのが一番賢明だ。」

「富を失う人は多くのものを失う。しかし友を失う人はさらに多くのものを失い、精神を失う人はすべてを失う。」(エルバンテス)

「夢を抱け、若者よ。気高く雄々しい夢を。そうすれば、汝の夢は汝の予言者となるであろう。」(ブルワー・リットン卿)

皆様が上記の言葉を心に刻み、それを生活の規範とするならば、それらの言葉を思い起こすのに費やす時間の何倍もの報いが得られるはずである。

私は、人生の戦いの中で、その日になすべき仕事を能力の限りを尽くして行なう以上に価値あることはないと感じている。また、そのようにする若者には、明日の労働へのよりよい備えができると思う。



私はまだ若く、学生であった頃、ソルトレーク・シティのウェルズ・ファーゴ・アンド・カンパニー銀行の出納係の男性が私の目標であった。聞くところによると、彼は月に150ドルの給料をもらっていた。日曜日を除いても日に6ドルと勘定して、その額が途方もなく大きいと感じたことをよく覚えている。その時、私はまだ、先に引用したブルワー・リットン卿の言葉を読んでいなかった。けれども、出納係になってウェルズ・ファーゴ・アンド・カンパニーで働くことを夢み、当時は高給と思われる給料を自分もいつの日かもらいたいと考えて、早速デゼレト大学で簿記を学ぶことにした。

ブルワー・リットン卿は次のように語っている。「人に必要なのは才能ではなく、目的である。達成するための力ではなく、働く意志である。」

またスコットランドの伝記作家、サミュエル・スマイルズはこう言っている。「目標は卿と同じように、温めて^か孵化させなければ腐っ

てしまう。」

リットン卿は、若者が気高く、雄々しい夢を持って人生に目的ができ、「その目標を腐らしてしまわずに、温め孵化させる」ことができると信じている。私は出納係になろうと決心して、早速実行にかかった。その時、私は仲間の笑い者になった。私のノートを見た友人たちが、「これは何だい、鶏の足跡かい。」「おやおや、インクびんでも倒したの」と口々に言った。

もちろん悪気があったわけではなく、楽しい冗談だったのだが、そのような言葉に私の心は奮い立ち、新たな決心が生まれたのである。大学中の手本になるような字を書いてみせよう、書き方と簿記の先生にきつとしてみせると堅く決心したのである。私はこのように目標と「働く意志」を持っていた。「若者の辞書には失敗という言葉はない」というリットン卿の言葉を信じていた。私は余暇を利用して書き方の練習を始めた。そして何年も練習を重ねて、ついに「傑出した能筆家」との異名を頂くまでになった。

その結果、それから数年後に、私はある保険会社の出納係兼保険証券係として就職することができた。当時15歳の私はかなりの達筆で、その仕事にはそれで十分なはずであった。しかし私自身はそれに満足できず、大きな夢を持ってただひたすら「能筆家」を志した。私が働いていた所がちょうどA・W・ホワイト・アンド・カンパニー銀行の真ん前だったこともあり、忙しくない時には自分から銀行業務の手伝いを買って出た。報酬のことなど考えずに、ただ仕事を学びたいということで、自分の時間内にできる仕事は何でもした。

たまたまその銀行の出納係をしていたモーフ氏がきれいな字を書く人で、私のために時間を取って字の練習を手伝ってくれた。その

ようにして腕が上がってくると、仕事の前後にカードや招待状を書いたり、地図作りの注文が来たりして、しばしば本職の給与を上回る収入を得るようになった。そして数年後には、私はユタ准州祭で書き方の最優秀賞を受けることができた。

私が自分の仕事に忙しかった頃、大学で習字と簿記の教師が空席になった。そこで私は、12か13の歳にその教科を教えられるようになろうと心に誓った約束を成就させるために、その職に応募した。そしてそれが採用になり、私は自分に課した責任を果たしたのである。

どの分野でも向上を目指して努力する若者は自己に忠実でなければならない。何かを達成しようと決めたら、実現するまで喜んで、しかも断固とした決意をもって努力することである。

自分に関することで何かをしようと決心しても結局実現できないままに終わることが多くなると、他人との約束もいいかげんになってくる。若者たちは、シェイクスピアが、家を出るウエルテスに父の口を借りて言った次の勧告を心に留めておく必要がある。「いちばん大事なことは、おのれに誠実になれ、ということだ。さすればかならず、夜が昼につくごとくにじゃな、他人に対しても誠実ならざるを得ん。」（「ハムレット」第一幕、第三場、三神勲訳）

ここで「ナショナル・フィフス・リーダー」誌からひとつの教訓を引用してみたい。私は学生時代にこの言葉に深い感銘を受け、以来常にその言葉が私の胸にある。

「絶望してはならない。」

幸福になるにしても不幸になるにしても、信念を持つことほど可能性を秘めた人間の特質はない。特に実業家にとって、これは実に大切な特質である。抗し得ないその信念の力

の前には、恐るべき大障害物もほとんど路上のくもの巣のようになってしまう。欲望のままに生活し、退くことを知らなかった人々をろうばいさせる苦難も、信念を持った人には笑いとなる。実に、この自然界の生き物である人間の歴史の中に、堅忍不拔と辛抱強い苦勞によってもたらされた数々の奇跡をありありと目にすることができるからである。

東方国家に触手を伸ばし、その権力をほしのままにした英雄チムール（1336—1405）は、一匹の虫から不撓不屈の精神を学び、それが将来の人格形成と成功に大きな影響を与えたと言われている。当時の逸話によれば、ある時、チムールは敵に追われてある廃墟に逃れ、そこでひとり沈思黙考していると、一粒のトウモロコシを運ぼうと懸命に努力している蟻が目についた。蟻はトウモロコシを持ち上げようと69回も繰り返して試みたが、そのたびにあと少しというところで重さに耐えきれずに倒れてしまった。しかし70回目にして、ようやく成功し、トウモロコシを引っ張って行ったのである。驚いたチムールはそれに勇気づけられ、これからの戦いに勝利を得る希望を抱くことができた。

この話には、非常に深い意味が秘められている。忍耐強くあれば揚々たる成功を収めたはずの人が、小心翼翼とし、意気消沈してしまったために不面目な失敗に終わることが多々ある。私たちは堅い決意さえ持つことができれば、ほとんど何でも成し遂げることができる。アイルランドの劇作家であり、有力な政治家でもあったシェリダンは、初めの頃、人前で話をするのが怖くて仕方がなかった。ところが、ある失敗をした日、奮起し一大決心をした彼は、友人にこう語った。『やればできるのだ。必ずやってみせる。』

その時から、シェリダンは見違えるように

積極的になり、ついに素晴らしい雄弁家として名をなすに至った。これこそ内に秘められた真の勇気である。ある道徳家は、私たちが物事に取り組もうとしないのはそれが難しいからではないと述べている。

私たちは果敢な精神を持つ必要がある。疑心に身をゆだねてはならない。それは裏切者のすることである。私たちが高尚な目標に向かって一步一步前進する時、どんなささいなことがあってもその目標を見失うようなことがあってはならない。人が高い目標に到達できないのは、公然と攻撃を受けたためではなく、むしろ小事をおろそかにすることが多いからである。どこにも善悪は存在する。疑わしければ、悪の道を選ばないことである。

このことを守って生活するならば、どのような経験もあなたにとって進歩の手段となるに違いない。」

「絶望してはならない」のこの教えは、私の人生を導くひとつの星であった。そして私はいつも蟻に負けてはいられないと自分を励ましてきた。

19歳の時、私はウェルズ・ファーゴ・アンド・カンパニーの支配人であるヘンリー・ワーズワース氏の保険証券係として帳簿をつけたり、保険証券に関連のある諸事を処理していた。私は臨時雇いで働いていた。私はその会社のためだけでなく、支配人にも個人的に仕えた。自主的に銀行の手紙の山を整理したり、ワーズワース氏が個人経営しているサンディー・スメルティング・カンパニーの帳簿もつけた。

先の歴代志上の聖句が真実であることを強調したい。と言うのは、私の行ないを見てワーズワース氏は非常に喜び、私をウェルズ・ファーゴ・アンド・カンパニーの集金係に採用してくれた。そのため、保険業務の給料27

ドルのほかに、20ドル毎月上積みしてくれた。このようにしてウェルズ・ファーゴ・アンド・カンパニーで働くことになり、私の夢はひとつ成就されたのである。

大みそかの日、私は遅くまで事務所で名刺を書いていた。すると、ワーズワース氏が入って来て、ビジネスは上々だと満足げに言った。彼は、私がサンディー・スメルティング・カンパニーの書類整理を無償で行なっていたことをあげ、私のことを大いにほめちぎった。そして、私に100ドルの小切手を差し出したのだ。これは私の働きの2倍にも相当する報酬だった。しかも、主人の信頼と好意を勝ち得た満足感は、私にとって100ドル以上の価値があった。

足を止めて自分の働きに対する報酬額を数えたりせず、ただ働きたい、学びたいの一心で全時間を労働に打ち込む若者がいる。こういう若者は必ず人生の闘いに成功を収める。

1890年から1891年にかけて、私たちの地域に精糖工場設立の動きが盛んになった。ところが1891年の経済恐慌のために、株主になると約束していた大勢の人々が、その約束を履行できなくなってしまった。そこで私が工場を設立する必要な資金を確保するために東部に派遣された。まず、ニューヨークとハートフォードに寄ってみたが、必要な資金は集まらず、その足ですぐにサンフランシスコに飛んだ。そこのウェルズ・ファーゴ・アンド・カンパニー銀行の出納係をしているヘンリー・ワーズワース氏から10万ドルの貸与を受けることができた。ワーズワース氏がソルトレーク・シティーでウェルズ・ファーゴ・アンド・カンパニー銀行の代理店を営んでいた頃、そこで働いていた時の私の誠実な仕事ぶりによって、お金が是非とも必要な時にあのような大金をすんなりと貸してもらえたのだと、

私は信じている。

また私が保険業を始めた時、保証人になってもらった人に、ホーレス・S・エルドレッジ兄弟がいる。契約にはふたりの署名が必要だということで、彼は実業界の大物であったウィリアム・H・フーパー氏を薦めてくれた。私はフーパー氏とはほとんど面識がないので、連帯保証人にはなってもらえないだろうと思った。しかし、エルドレッジ兄弟が大丈夫だというので、私はフーパー氏にお願いしてみた。案の定にべもなく断われた。私はそのまま自分の職場へ戻った。しかしほんの1,2分もしないうちに、今行ってきたばかりのデゼレト・ナショナル銀行からの使いが、私に会いたいというフーパー氏の言付けを持ってきた。私はたった今、フーパー氏と会って話をしたばかりだし、もう話すこともないので、お会いするまでもないと答えた。私が帰った後、フーパー氏が是非お会いしたいと言い出したものですからと熱心に口説かれ、私もそれではと腰を上げ、再びフーパー氏に会いに出向いた。

銀行に着くと、フーパー氏が言った。「その契約書をちょっと貸して下さい。」それからその契約書に署名して言った。「先程、あなたが来られた時は、気づきませんでした、あなたにはずっと昔に町でたびたびお会いして、声をかけたこともありましたね。すっかり忘れていました。あなたが帰った後、よく聞いてみたら、あなたはジェダディア・M・グラントさんのご子息ではないですか。それで、すぐに使いの者をやったのです。保証人になれてうれしいですよ。たとえ保証の責任がまわってきたとしても、ジェダディア兄弟の息子さんのためなら喜んで保証します。しかし、あなたなら、そんな心配はないと思いますかね。」

フーパー氏は私の父との思い出をあれこれ

と語ってくれた。私は彼の話を聞きながら、彼がどんなに父を愛し、信頼していたかを知ることができた。そしてそのような父を支えて下さった神に感謝する気持ちが胸にあふれてきた。しかも彼の言葉は決して消えることのない言葉として、私の心の奥底に刻まれている。そして私は以前にもまして、自分がこの世を去ったのちも自分の残したものが子供たちに利益となるような生き方や働きをしたいという強い願望を持つようになった。

私はフーパー氏の言葉や行為から、善い父を持つ幸せを深くかみしめていた。父は私が生まれて9日目に死んだが、それから20年後に、私が父の正直と誠実な働きの実を刈り取ったわけである。今お話したこの出来事は、今から23年も前に起こったことである。その後も私は父の正直や高潔の徳のお陰で数えきれないほどの祝福を受けてきた。

私はA・W・ホワイト・アンド・カンパニーやウェルズ・ファーゴ・アンド・カンパニー（この会社では集金係をした以外は正式に働いたことがない）などがある同じ建物内で働いていて、帳簿や出納や取引業務を手伝うことによっていろいろな知識を得、その知識によって前任者がヨーロッパへ伝道に出た留守中ザイオンズ・セービング銀行信託会社の支店長代理の仕事をすることもできた。もし私がホワイト銀行やウェルズ・ファーゴ銀行にいた時に喜んで暇な時間を割くことをしなかったとしたら、ザイオンズ・セービング銀行の職に就くこともできなかったであろう。

末日聖徒はまず自分の生活を整え、人々がその模範的な生活を真似るような生活をし、かくして自分自身と子孫とに榮譽と祝福をもたらす、主のみ業のために友を増やしていく必要がある。これこそすべての末日聖徒が抱く最も高邁な理想でなければならないと思う。

質 疑 応 答

本誌の回答は問題解決の一助として与えられたものであり、教会の教義を公式に宣言するものではありません。



シェリー・ダウニング

(ウイルミントン・デラウェア・ステータスキ部扶助協会管理会会員、7児の母)

「私が召されると思っていた役に、ほかの人が召されました。私はそのことで動揺し、悪い気持ちさえ感じています。この気持ちをどのようにすればよいのでしょうか。」

私 この質問が寄せられたことをうれしく思っています。私もこれまでに何度かこの問題で悩んだことがあるからです。私は長い間、扶助協会会長の召しを受けることが、末日聖徒の女性にとっての最大の目標であると考えていました。また、扶助協会の会長でなければ、初等協会か若い女性の会長には召されたいと思っていました。

ところが、私はこのいずれの責任にも召さ

れなかったのです。何度か扶助協会の副会長を務めました。会長には一度も召されませんでした。

私はそのことに対してあれこれと理由を考えてみました。「私にはまだ小さい子供が大勢いるから召されないのかしら」と、思いました。ところが、次に召された会長には、学齢前の子供が4人もいました。また「私は若すぎるから、召されないのかしら」とも考えました。しかし次の会長に選ばれた人は、私よりもずっと若い姉妹でした。さらにこうも考えました。「私はまだこのワード部に来て5年しか経っていないからきっと召されないんだわ。」しかし次に会長に召された人は、ワード部に転入してきたばかりの姉妹でした。

ついにその会長も替わることになりました。どう考えても、私が子供日曜学校主任の責任を解任されて、扶助協会を導く責任に召されるのが妥当であるように思えました。私は自分の召される時がきたと思いました。監督は、子供日曜学校の現状について話し合うために私と面接したいと言ってきました。しかし、私は、監督がその面接で私を扶助協会の会長に召し、びっくりさせようとしているのだと確信していました。私は扶助協会に対する新しいビジョンを表にまとめて、面接の時を待ちました。また副会長に推薦する人の名前さえも決めていました。

このようにして、監督との面接が始まりました。そこで何について話し合ったと思いますか。子供日曜学校のことでだけでした。

私はすっかり落胆しました。監督が私の能力を認めてくれないと言って、夫に愚痴をこぼしました。夫は優しく「召しは主から与えられるものだよ」と言いました。私は泣き出してしまいました。「どっちにしても同じこと

じゃないの。主も私の能力を認めて下さって
いないのよ。」

その時、私はとても苦しみました。けれどもその後、私も変わり、二度とそのような気持ちになったことはありません。そしてあなたと同じように自分の否定的な思いが恥ずかしくなり、いやになりました。何とか自分を変えたいと思いました。そして、このような時にまず第一に行なわなければならないことを行なえるようになったのです。つまり、ほかの人が選ばれた理由を考えたり、自分の落胆した気持ちを無理に抑えたりせずに、主のみ前に自分のすべての気持ちを打ち明けたのです。そして、前よりも一層主のみこころを伺うようになりました。私に学ぶ姿勢ができ上がったところで、主も私を導いて下さるようになったのでしょうか。それから、2,3週間私の心に、ある変化が生じてきました。私の理解の眼は次第に開け、神の王国における召しの本質がどういうものかはっきりとわかってきました。その時、私は次のようなことを心に銘記することができました。

**召しとは、奉仕する機会であって
報いではない**

私たちは時折、昇進して組織の管理者になれる人はその能力が認められていないという一般社会の通念を教会にまで持ち込むことがあります。しかし、主が人を召されるのは、報いを与えるためではなく、真心からの奉仕を求めておられるためです。もちろん、召されることによって祝福がもたらされることもあります。しかし、それは、召しを受けてからの私たちの努力いかんによるのです。

教会における真の階級とは、義の階級である

主は召しの種類ではなく、私たちの心と行ないを見て裁かれます。ワード部には訪問教師や聖歌隊員、教師などの責任があります。これらも主が与えて下さった大切な召しです。主が喜ばれるのは、その内容であって、召し

ではありません。

天父のみこころは測り知れない

「わが思いは、あなたがたの思いとは異なり、わが道は、あなたがたの道とは異なっていると主は言われる。」(イザヤ55:8)

ここ2,3年の出来事を振り返ってみると、私たちは生活の中に主のみこころが現われていることをよく知ることができます。しかし、子供のために思って与える親の勧告が、時折子供には理解できないことがあるように、私たちも天父のみこころを理解することは容易ではありません。創造主が微妙な均衡を保ちながら事を行なわれるのに、私たちは驚嘆してしまいます。それでいて、なぜ主を信頼し主のみこころを理解しようと努めないのでしょうか。なぜマリヤのように、真心から「お言葉どおりこの身に成りますように」(ルカ1:38)と言えないのでしょうか。

**現在自分に与えられている召しを
もっとよく果たす**

ペンシルベニア州フィラデルフィア・ステーク部のドウエイン・ロイド副ステーク部長は、「自分に与えられている召しを精一杯果たしている人はだれもいない」と述べています。また、ほかの人の召しを求めたりせずに、現在の召しに2倍の力を注ぐように勧めています。つまり、今自分に与えられている召しが自分にとって教会で最高の召しであると考えることです。これはとても効果があります。

もっと謙遜になる必要がある

イエスは幾つかのたとえ話を通して、謙遜であることの大切さを繰り返し強調されました。私たちが誇り高ぶらず、ほかの人に与えられた機会をむさぼらなければ、私たち自身も周囲の人も幸福になれることを主は御存じでした。リーハイの息子ヤコブは、そのことを簡潔にまとめて、次のように述べています。「それであるから兄弟たちよ、主に向かって

勧めをしようとはしないで主から訓戒を受けようませよ。ごらん、あなたたちは主が智慧と正義と大きな憐みとをもって、造りたもうた万物を勧め戒めて治めたもうていることを知っている。」(ヤコブ4:10)

私の経験と考えの中から少しお話してきましたが、私がか心から願うのは、あなたが心を和らげて一日も早く主の方法に従って下さる



管理監督会第一副監督
H・パーク・ピーターソン

「教会において支持の挙手をすべき時と場所について教えて下さい。また、そのような挙手をしてはならない時と場所についてはどうでしょうか。」

教 会員にはそれぞれ自分が所属する教会ユニットの役員を支持する権利が与えられています。

教会員は、自分が住んでいる地域のワード部または支部の役員を支持できます。しかし、自分の地域外のワード部や支部の役員のため

ようにということです。主があなたを愛し、あなたを見守って下さっていることを知ることです。あなたの奉仕は、たとえそれが何の責任であれ、あなたが知らないだれかの模範になっていることを忘れてはなりません。人はあなたの態度を見て、あなたを模範として見るかもしれないのです。

に支持の挙手をすることは求められていません。だからといって、挙手をしてはならないということではありません。

さらに教会員は、自分の所属するステーク部、地方部または、伝道部の集会で挙手を求められた時に、その役員を支持することができます。しかし、ステーク部、地方部、または伝道部の管轄外に住む教会員は、支持の挙手をする必要がありません。ただし、この場合も、挙手をしてはならないということではありません。

また教会員は、教会幹部の名前が提示され、支持の挙手を求められた場合は、教会のどこでも彼らを支持する挙手をするすることができます。

教会員は教会の責任に召されると、全員の前に提議されて支持を受けます。その場合、本人も賛成の挙手をすべきです。

ある人を教会の責任に支持する挙手は、主がその人をその責任に選ばれたことを支持するという約束を交わすしるしなのです。ハロルド・B・リー大管長は、支持の挙手には決心と誓約が伴うと言われました。リー大管長は、ジョセフ・フィールディング・スミス長老が教会の予言者、聖見者、啓示を受ける者として支持された聖会で、次のように述べています。

「すべての人は自分の望むままに、まったく自由に挙手することができる。この支持の挙手に何ら強制はない。賛成の挙手をした時、あなたは支持すること、つまりあなたが支持

した役員に対して何の言い逃れもためらいもなく、完全な忠誠と支持を捧げることを主と誓約するのである。」(Conference Report「大会報告」1970年4月, p.103)

私たちは自由意志を行使して、賛成することも反対することもできます。しかし、私たちはジョセフ・フィールディング・スミス大管長から与えられた次の勧告を祈りの気持ちをもってよく考えてみる必要があると思います。

「だれも教会員の賛成が得られなければ、どんな地位について管理することもできない。人々は様々な責任ある地位に召されるが、主はこの人々を挙手によって支持するよう、私たちに責任を課せられた。教会員の反対を受けた人はだれも、この教会で末日聖徒のいかなる組織をも管理することができない。しかし、人を推薦したり、選んだりする権利は教会員にない。それは神権に属する権利だからである。神権者は、天父から靈感を受けて人を選ぶ。そこで末日聖徒は、大会か他の名目で集まっている時に、挙手によって支持または反対の意志を表わすことになるのである。これは末日聖徒の義務である。反対する場合、頭に立つ人の前に提示されても、確実な根拠があると認められるような理由がなければ、だれも反対の挙手をする資格がないと私は考えている。言い換えれば、ただその人が嫌いだから、または個人的に同意できない、感情的に合わないから、などという理由で人がこの教会の地位に召されるのを反対する権利はない。支持の提示を受けた人物が、誤った行為をしていたり、教会の律法を破っていたりして、召されようとしている地位にふさわしくない場合にだけ反対する権利があるのである。以上がこの問題に対する私の考えである。」

(Conference Report「大会報告」1919年6月, p. 92)

教会員を教会の役職に召す権利は、神からの靈感と導きを受けることができる神権の管理者にあります。教会員各人には、支持する

権利しかないのです。ジョン・テイラー大管長は、「神が任命し、人々が支持する」と言っています。J・ルーベン・クラーク・ジュニア副管長は、この原則について教会の総大会で次のように述べています。

「管理する幹部がある人のある職に指名、選出、あるいは任命した場合、その人は教会全体の支持を受けるよう提議される。

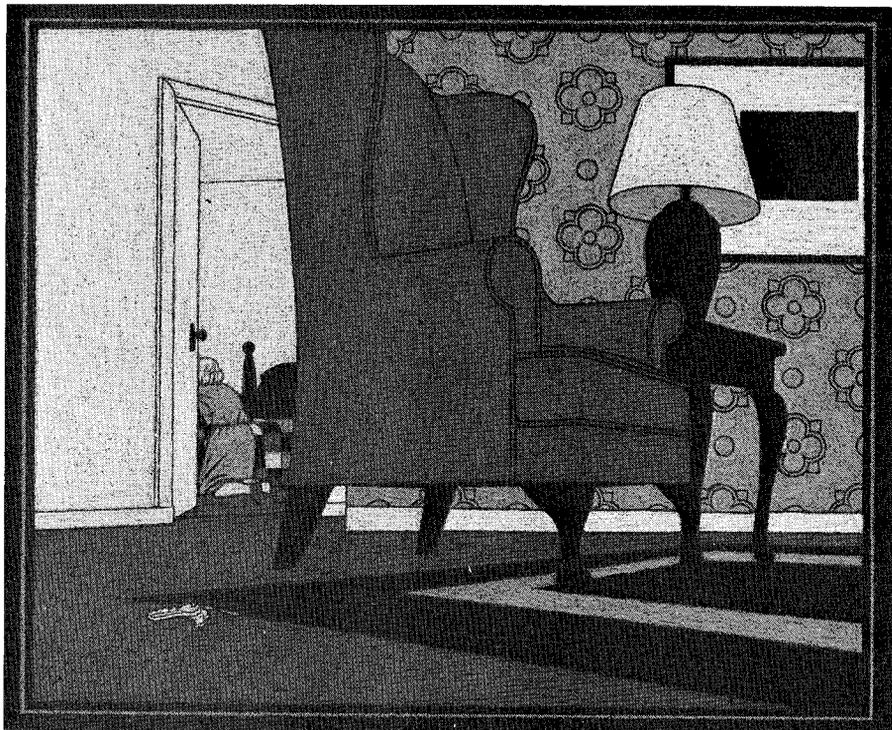
このように、教会全体には任命または指名の権威が与えられていない。あるのは支持する権威のみである。

従って、管理する幹部が教会全体にある人の支持を求めた時、会衆が持つ権威は、支持するか否かを挙手により示すことのみである。

会衆ならびに他のいかなる教会員も、他の人をその職に任命するよう提議することはできない。なぜならば、召しは管理する幹部のみに与えられた権威であり、職務だからである。論議や、他の名前の提起、資格の有無についての議論は、この会の秩序を乱す以外の何物でもない。」(Conference Report「大会報告」1940年10月, pp. 28—29)

教会の管理役員により名前を提議される人は、すでに主より選ばれています。そして、私たちには、その主が選ばれた人に賛成の挙手をする機会が与えられているのです。ハロルド・B・リー大管長が予言者、聖見者、啓示を受ける者として召された時、スペンサー・W・キンボール大管長はこの原則を再度確認して次のように述べています。「リー大管長は、委員会や代表者会議で論議や批判を尽くした末に選ばれたのではない。また、人々の投票によって選ばれたのではない。神より召され、そして人々の支持を得て選ばれたのである。」(Conference Report「大会報告」1972年10月, p. 28)

私たちには、管理役員から教えられた正しい原則に基づき、みたまの証を得て支持の挙手をする神聖な責任があります。



鍵と、コンタクトレンズと、祈り

ウィリアム・G・ダイヤー

祖母が我が家に来ている時のことだった。いざ家族でそろって出かけようとした時に、ひとつ困った問題が生じた。車の鍵が見あたらないのである。妻も子供たちも、また祖母も捜してくれた。しかし、どこにもない。これで外出できないと、みんながっかりしていた。すると、祖母はそっとその場を去って、自分の寝室に入っていった。それから数分後、子供のひとりが鍵を見つけた。敷物の下に落ちていたのである。

こうして私たちは楽しく出かけることができた。途中、子供のひとりが祖母に、「どうして鍵を捜さずに自分の部屋に入ったの？」と尋ねた。すると祖母はそばでじっと耳を傾け

る5人の子供たちに向かってこう答えた。「お出かけができなくなったら、みんながどんなにがっかりするか知っていたからよ。部屋に行って、鍵が見つかるようにとお祈りしたの。だからすぐに見つかったでしょう。」

それから数日後、またもや面倒なことが起こった。10代の娘がコンタクトレンズを両方共なくしてしまったのである。娘は、「私ってなんてばかなのかしら」と自分を責めていた。家族の者も口にくそ出して言わなかったが、内心そう思っていた。そして再び家族総がかりでコンタクトレンズを捜すことになった。捜しながら、娘の部屋の前を通ると、ドアがわずかに開いており、娘のひざまずいている

姿が見えた。そして、「天のお父様どうぞコンタクトレンズが見つかるようにして下さい」というやさしい嘆願の声が聞こえてきた。全員が長い時間捜し回ったにもかかわらず、コンタクトレンズは出てこなかった。娘は今にも泣き出しそうな顔でこう言った。「私は祈った後、きっと見つかると思ったわ。おばあちゃんが祈った時には鍵が見つかったのに、どうしてコンタクトレンズは見つからないのかしら。分からないわ、私。」

この娘は、多くの人々が直面する極めて大切な問題と取り組んでいたのである。すなわち、祈りはかなえられる時と、そうでない時がある。それでも主は私たちの祈りに耳を傾けておられるのだろうか、という問題である。また、主は人によって答えを与えて下さったり、与えて下さらなかつたりするのだろうかという疑問も起こってくる。人によって主のころを動かす力が違うのだろうか。それとも、失ったものが見つかるのは偶然のことであり、主はそれに一切関知しておられないのだろうか。

何のために、どのように祈ったらよいか

上記の質問に対する答えを聖典の中から捜してみよう。救い主はこの地上におられた時に、私たちに祈りの方法を示し、こう言われた。「だから、あなたがたはこう祈りなさい。」(マタイ6:9-13)

A. 「天にいますわれらの父よ、御名があがめられますように。」

まず初めに、天父としての神を認め、神に敬虔な思いを示す。

B. 「御国がきますように。みこころが天に行なわれるとおりに、地にも行われますように。」

イエスは私たちに、祈る時にはいつもみこころが行なわれるようにとお願いするよう忠告された。このことを祈りに加えない人

が意外に多い。失った鍵やコンタクトレンズのような物でも、私たちは、自分の願い通りにそれらがすぐに見つかるようにと祈ってしまう。特に問題が大きい場合、例えば愛する人の病気、子供が行方不明、重大な決断を下さなければならないなどの時には、はっきりとした方法で祈りに答えて下さるように主に求める人が多い。それは、神のみこころが行なわれるようにと祈った場合、それが自分の願いと一致していなければ困るという気持ちがあるからである。自分の望みをわきにおいて、主のみこころが行なわれるようにと祈るには、篤い信仰と分別が必要である。コンタクトレンズをなくしたというような小さいことについても、主はそれが見つからないことから何かを学ぶ方が、欲しいものがすぐに与えられることよりも重要であると考えておられるのかもしれない。主は、何が欲しいかよりも、何が必要であるかの方を重く見られる。

C. 「わたしたちの日ごとの食物を、きょうもお与えください。」

私たちは物をなくしたというような些細な事柄でも祈るべきだろうか。その通りである。主は私たちに何が起こっているか、すべてを御存じである。イエスは、私たちの頭髪さえもみな数えられている、とはっきり言われた。(マタイ10:29-30参照) 私たちは自らの関心事、恐れ、悲しみ、望み、抱負、問題など、すべてについて常に祈るように勧められている。モルモン経の中では、日常生活のあらゆる事柄について祈るようにと言われている。モルモン経の民は、日々の食物を与えたまえと祈るようにという主の勧告と同じように、家畜や田畑についても、また日常の事柄についても祈るようにと言われている。しかし忘れてならないのは、必要なことを祈るのであって、ぜいたくなもの、不必要なもの、気まぐれか

らくるものなどを祈り求めてはならないということである。それが必要なものかどうか確信が持てない時には、祈る時に「主のみこころが行なわれますように」と願うことが大切である。

- D. 「わたしたちに負債のある者をゆるしましたように、わたしたちの負債をもゆるしてください。」

赦しはとりわけ重要なことであるため、マタイによる福音書の主の祈りのすぐ後で、主はもう一度赦しについて述べておられる。

「もしも、あなたがたが、人々のあやまちをゆるすならば、あなたがたの天の父も、あなたがたをゆるして下さるであろう。もし人をゆるさないならば、あなたがたの父も、あなたがたのあやまちをゆるして下さらないであろう。」(マタイ 6:14-15)

祈る時には、自らの生活を省みて、生活を正すことができるよう助けを求める必要がある。救い主は私たちが改めるべき事柄として赦しを挙げられた。このことは実に大切である。

- E. 「わたしたちを試みに合わせないで、悪しき者からお救いください。」

神が私たちを誤った道へ誘うことがあるだろうか。もちろん、そんなことはない。ジェームズ・E・タルメージ長老は、主の祈りのこの言葉について次のように説明している。「この聖句から、私たちは、神が人間をいつも誘惑に引き込む方であると理解してはならない。……この聖句の中にある嘆願の意図は、私たちの弱い力に耐えられないほどの誘惑に会わせないように守りたまえ……ということであると思われる。」「基督イエス」p. 279)

また、この末日に与えられた主の勧告に目を転じて見れば、教義と聖約に記された祈りについての事柄の多くが、敵の力に打ち

勝つことができるようにとか、それに屈することがないように、あるいは悪から守られるようにといった祈りであることが分かる。時として私たちは、なくなった鍵やコンタクトレンズなど、日常の些細なことのためだけに祈っている。そしてもっと重要なことについて祈るのを怠っている。もちろん小さいことについても助けを求めることは大切であるが、誘惑を退ける力が持てるようにと常に祈る必要のあることも忘れてはならない。

- F. 「王国と能力と栄光は、永遠にあなたのものだからです。アーメン。」(欽定訳より和訳)

終わりに当たって、もう一度神の偉大さとそのみ力を認識する必要がある。神は私たちの創造主であり、天父である。そして、私たちは神に依存している者である。折に触れて神の王国における重要な事柄や、神のみ力と栄光の偉大さに心を向けるようにすると、コンタクトレンズを置き忘れたことなど実に取りに足らないことで、そのようなことで主をわずらわせていることが恥ずかしくなるであろう。しかし、主は一羽のすずめ、一本の頭髮に至るまで心に留めておられる。したがって、忙しすぎて私たちの真剣な祈りに耳を傾ける余裕がないなどということは決してないのである。

神は祈りに耳を傾ける度合を人によって変えられるのだろうか

天父が、10代の娘よりも祖母の祈りに心を強く動かされるということは、あり得るかもしれない。なぜなら、祖母は長年献身と奉仕の生活を送ってきた人であり、10代の娘は人生を歩み始めたばかりだからである。しかし神は人々を偏り見る御方ではない。ある人を他の人よりも深く愛するという事はなさない。主の目には一人一人が貴い存在なので

ある。しかし、ふさわしくなればなるほど、天父の祝福を豊かに受けられることは、私たちのよく知っているところである。だれが祈ったかは問題ではない。要は、祈りの中に感じられる神と、祈る人の信仰次第である。

またイエスは、人に見せようとして祈る人や、くどくどと祈る人、高慢な人を非難されたことを心に留めなければならない。主は、目を天に向けず頭を垂れて「神様、罪人のわたしをおゆるしてください」と願った罪人の謙遜な祈りに心を動かされた。

また、聖典に次のように記されている。「汝須らく謙遜なれ、さらば主なる汝の神は手を取りて汝を導き汝の祈りに応えん。」(教義と聖約112:10) モルモン経はこう教えている。「主は……万人が主の御許へ来て主のめぐみにあずかるように招きたもうている。それであるから、主の御許へくる者は黒人と白人、奴隷と自由人、男と女の区別なく誰を拒みたくも無い。また主は異教徒さえもかえりみたもうから、神の御前にはユダヤ人も異邦人もみな平等である。」(II ニーフアイ 26:33)

それは祈りの結果ではなく、偶然に起こったことなのだろうか

祖母が祈らなくても鍵は見つかったであろうか。そういうこともある。物事は偶然に起こることもあれば、努力や訓練によって起こることもある。しかし、祈るだけでは何も起こらない。イエスは、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせて下さる。そしてすべての者がそれぞれ幸せを得られるようになっている。私たちは、次のような律法があることを教えられている。「そもそも創世の以前より天に於て定められた一つの変らざる律法ありて、あらゆる祝福はこれに基くなり。すなわち、われら何にても神より祝福を受くる時は、この祝福の基く律法に従うによりて然るなり。」(教義と聖約130:20—21) 律法に従う者は、その律法に付随する祝福を受ける

であろう。時には、祈らなくても、律法に従っていることで何らかの祝福を受けることがある。

プロゴルファーのアーノルド・パーマー氏は、ある時非常に長いパットを沈めて試合に勝った。それを見ていた人が、「アーノルド、実にラッキーだったね」と言った。するとパーマー氏はこう言った。「練習すればするほど自分に『運』が巡ってくるのだから不思議なものですな。」練習もしないで、ロングパットを沈められるようにと祈ったところで、主はたしてその願いをかなえて下さるであろうか。多分、願いはかなえられないであろう。ヤコブが述べているように、祝福を得るには単に祈りだけでは足りないのである。「信仰も、それと同様に、行いを伴わなければ、それだけでは死んだものである。」(ヤコブ 2:17)

聖典には、神があらゆる事柄に心を留めておられることがはっきりと記されている。イエスは私たちに、御父は私たちが願う前に何が必要であるかをすべて御存じである、と言われた。主は次のように述べておられる。「およそ人何事にも神を怒らせずまたは何事にも神の怒り燃ゆることなし、ただすべての事の中に神の御手のあることを告白せず、その誠命に従わざる者に神の怒りあり。」(教義と聖約59:21) すべてのことは主のみ手の中にある。したがって、天父は私たちのために諸々の事柄に力を及ぼすことができになる。私たちはそのことを知る必要がある。

では、今後は祈りをどのように考えればよいだろうか。祈りは御父と交わる最も有効な方法である。私たちは賢明に、しかも正しい精神をもって祈るようにしなければならない。主は私たちに何が必要かを御存じであり、それをふまえて、私たちに必要かつふさわしい祝福を与えて下さる。私たちは何事にも主のみこころが行なわれるように、また主のみこころを受け入れる信仰を培うことができるようにと祈ることが大切である。

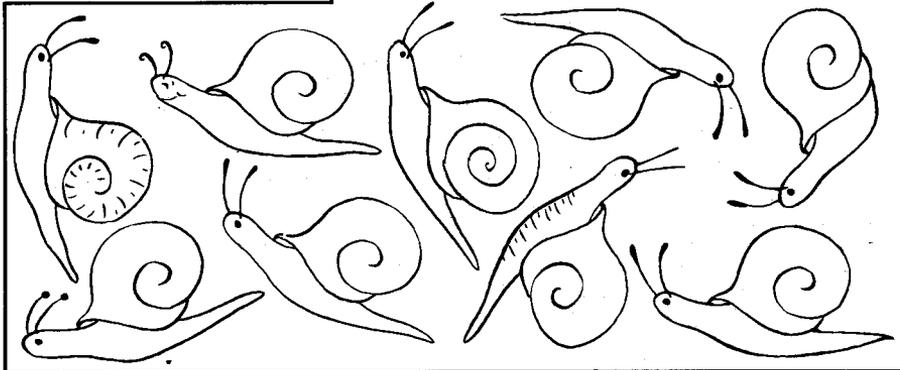


ちい 小 さ な お 友 だ ち へ と も



おもちゃばこ

この中に、かおもかたちもそつくりのかたつむりがいます。おなじかたつむりをさがして、色をぬりましょう。



できるかな

きごうのついでに7つの三角形を、そのままほかのかみにかきうつしてください。つぎに、はさみでそれをきりはなします。三角形をじょうずにくみあわせて、ひしがたを作ってください。

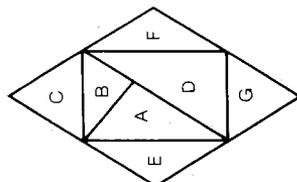


なんさいでしょう

創世紀に出てくる人たちの年をたてみましょう。なんさいになるでしょう。

(参照聖句)

メトセラ	創世紀 5 : 27
ヤレド	創世紀 5 : 20
アダム	創世紀 5 : 5
ノア	創世紀 9 : 29
セツ	創世紀 5 : 8
カイナン	創世紀 5 : 14
エノス	創世紀 5 : 11
マハラレル	創世紀 5 : 17
レメク	創世紀 5 : 31
アブラハム	創世紀 25 : 7
ヤコブ	創世紀 47 : 28





マイ手紙

おはなし：マウ



「コリーおじさんは、まだ？」マイケルはもう10かいも、お母さんにききました。

その日、マイケルに手紙がとどきました。あけてみましたが、なにが書いてあるのかわかりません。その手紙はイタリア語で、お母さんに見せても、さいごの2行の「アリベデルチ マリオ」しかわかりませんでした。

マイケルは、「アリベデルチ」のいみを知っていました。コリーおじさんが、イタリアで伝道していたときにくれた手紙には、いつも「アリベデルチ」と書かれていたからです。それは、「また会う日まで」といういみでした。

コリーおじさんがイタリアで伝道していたとき、マイケルは、コリーおじさんにたのまれて、イタリアのかぞくに手紙を書き、モルモン経といっしょにおくりました。その手紙にへんじが来たのです。

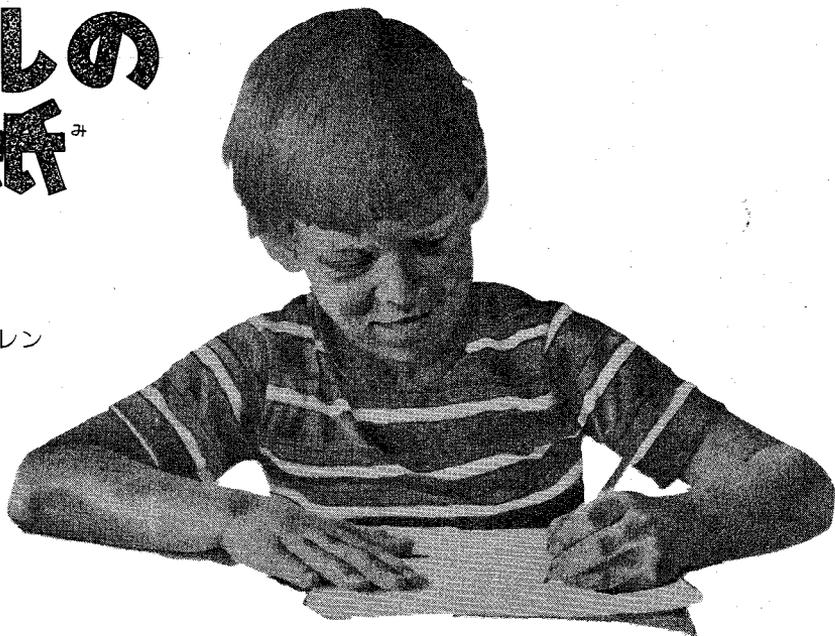
マイケルの手紙はこうでした。

マリオくんへ

ぼくは8さいです。ぼくはお父さんからバプテスマをうけて、せいれいをうけました。ぼくは毎しゅう、初等協会に行きます。せんしゅうは、イエスさまがびょうきの子どもをおいやしになったことをなりました。

ケルの が紙

ナ・ラエ・アレン



きみも、はやく^{しょうとくきょうかい}初等協会に行けると
いいですね。

きみのともだちマイケルより

マイケルはへんじが来るとは^{おも}思って
いませんでした。でも^き来たのです。な
んと^か書いてあるのか、はやく^し知りたく
てたまりません。

キーッと、じどうしゃのとまる^{おと}音
がしました。まどのところへ^い行ってみ
ると、コリーおじさんの^みすがたが見え
ました。

マイケルは、おじさんのところへと
^{てがみ}んで行って、手紙を^よ読んでもらいまし
た。

マイケルくん

ぼくは9さいです。きょう、ぼく
はバプテスマをうけて、まつじつせ
いとイエス・キリスト^{きょうかい}教会の^{かい}会いん
になりました。お^{とう}父さんとお^{かあ}母さん
もバプテスマをうけました。ぼくた
ちは、ほん^{きょうかい}とうの^{かい}教会の会いんにな
れて、こうふくです。ではまたね。

アリベデルチ

マリオ

マイケルはうれしくて、とび^{あが}上りそ
うでした。マイケルは^{おも}思いました。「い
つか^{でんどう}伝道に行つて、マリオに^あ会おう。」

何かがあった

おはなし：アナベル・スムラ

ジャングルのなかには、キリンとライオンとトラとシマウマとゾウがすんでいましたが、あまりなかよしではありませんでした。みんな、プリプリ、トゲトゲして、あさがしばかりしていました。

トラは、目がチラチラするのでシマウマのシマがきらいでした。シマウマも、キリンと話すと首がつかれるので、キリンの長い首がきらいでした。

キリンはライオンのいびきがうるさいので、きらいでしたし、ライオンは、ゾウが来ると日かげになって、日光よくができなくなるので、ゾウがきらいでした。さてゾウはといえば、いつもトラにおどかされるので、トラがきらいだったのです。

来る日も来る日も、もんだらけでした。あるあつい日のことでした。トラが歩いてると、シマウマが目をあびて歩いていくのが見えました。シマウマのシマはとてもきれ



いでした。

シマウマが近づいて来ると、トラはいいました。「白と黒のシマは、わるくないね。うす目で見れば、そんなにチラチラしないしね。」

シマウマはうれしくなって、首をまげて、シッポをふりふり走って行きました。すると、アカシアの木の葉を食べているキリンに会いました。トラのおせじでウキウキしていたシマウマは、いいました。「長い首はすてきだね。上の方はどうだい。」

「空気はきれいだし、しずかだよ。」キリンは首をシマウマの首の高さまで下げながらいいました。キリンとシマウマは、しばらく一しょに歩きながらおしゃべりしました。キリンは、日かげをさがして、昼ねをしようと思いました。

ところが、そこにはもうライオンが来ていて、いびきをかいて、ねていました。キリンは、ライオンがちょっとじゃまだなと思いました。でも、うとうとしはじめると、ライオンのいびきが、子もり歌のように聞こえてきました。キリンは、ライオンのいびきのリズムに合わせて首をふりながら、やがてぐっすりねむってしまいました。

キリンとライオンは、一しょに目をさしました。キリンはいいました。

「きみのいびきは、いい気もちだったよ。まるで子もり歌みたいだったよ。」

「ありがとう。」ライオンはうれしそうにいいました。

ライオンは日光よくがしたくなって日なたに出ましたが、すぐにあつてたまらなくなりました。すると、そこへゾウがやって来ました。ライオンはゾウのかげの中に入り、一しょに歩きながらいいました。「水のみ場に行くんだろ。きみのかげに入って行ってもいいかい。アカシアの木かげよりずっとすずしいよ。」

「どうぞ。ぼくのかげがやくに立って、うれしいよ。」

ゾウが草を食べようとして、しげみに来ると、そと、トラが近づいて来ました。

「ワッ、びっくりしたなあ。足音がしないんだもの。ぼくのこの大きな耳でも聞こえなかったよ。」

トラは、とくいになって、ゾウの前で、もう一ど、足音をたてないで歩いて見せました。

ジャングルは前と同じでした。木も草も前と同じでした。でも、何かがかかりました。今では、キリンもライオンもトラもシマウマもゾウも、みんななかよしです。

せかいで一番



ベッドはふかふかして、あたたかでした。メリッサは、シェリーがまだねむっていないといいな、とおもいました。まどから月の光がさしこんで、かべにいろいろなもののかげをうつし出していました。

「せかいで一番するどいものは何か

しら」メリッサはいいました。

「何だかっていいじゃないの」シェリーは、めんどうくさそうにこたえました。

「かげじゃないわね。かげはかどだって、とてもやわらかいもの。」メリッサはしばらくだまって考えました。

すゝどいもの

「せかいで一番^{いちばん}すどいものを見つ
けるには、すべての馬^{うま}にわたしのうで
をかませてみなくちゃ」

「ばかみたい」シェリーはあきれて
いいました。

「それから犬にも」

「何^{なに}いってるのよ。できっこないじ
ゃないの。」

「ピンはとてもすどいわね。たい
てい何^{なん}でもつき通^{とお}してしまうもの。そ
れとも、お母^{かあ}さんのハサミが一番^{いちばん}かし
ら。わたしがみの毛^けなんか、かんた
んに切^きれちゃうわ。」

「もうねむりなさいよ。」シェリーが
さえ切りました。

「ナイフも、1びょうでパン^{ぱん}を切^き
てしまうわ。でも、クギだって木^きをつ
き通^{とお}すし……。そうだ、わかったわ。
ひいひいおじいちゃん^{かたな}の刀^{かたな}よ。あれな
ら何^{なん}でも切^きれるわ。」

「メリッサ、しずかにしてちょうだ
い。ねむれないわ。」

「せかい中の馬^{じゆう うま いぬ}と犬^{いぬ}にかみつかせて
ピンやクギをさしてみて、ハサミとナイ
フと刀^{かたな}で何^{なに}かを切^きてみれば、わか
るんだけどなあ。」

シェリーは、ベッドの上^{うえ}におき上^{あが}
っていました。「メリッサ、しずかにし

ないと、お父^{とう}さんにいつけるわよ。
あなたがいなかったらどんなにいいか
しら。夜中^{よなか}じゅうしゃべっている妹^{いもうと}が
出て行^いってくれたら、ほんとにうれし
いわ。」シェリーはもうふをかぶって、
せなかをむけてねてしまいました。

メリッサは、長い間^{なが あいだ}だまっていまし
たが、とうとうこういいました。「わか
ったわ。せかい^{いち}すどいものが。」

「うるさいわね。」

「それは、ことばよ。一番^{いちばん}人をきず
つけるわ。」

シェリーはおどろいて、メリッサの
ほう^{ほう}方をむいていいました。「メリッサ、ご
めんね。本気^{ほんき}じゃないのよ。出て行^いか
なくていいのよ。ここにいてね。」

ふたりはしばらくだまっていました。

「シェリー」メリッサがいいました。

「なあに」

「せかいで一番^{いちばん}やわらかいもの^{なに}が何^{なに}
かわかったわ。」

「それは、何^{なに}？」

「それはね、ことばよ。」メリッサは
答^{こた}えました。

やみを通^{とお}して、シェリーはメリッサ
がにっこりとほほえむのが見^みえたよう
な気がしました。シェリーは、やさし
くいいました。「大^{だい}すきよ、メリッサ。」

ダンの 什分の一

1970年のある夜のことでした。15歳のダン・エクランドは、家ごとといっしょに、スイスの伝道本部に行きました。まつじつせいとイエス・キリスト教会について、もっと聞きたかったのです。

ダンの家ごとくは、ずっとアフリカのコンゴにすんでいました。お父さんとお母さんは、プロテスタント教会のせんきょうしで、18年もコンゴでせいかつし、7人の子どもたちは、みんなコンゴで生まれました。

ダンがまつじつせいとイエス・キリスト教会にきょうみをもち、バプテスマをうけたいと思っただのは、夏やすみに南アフリカに行ったときのことです。もちろん、家ごとくははんたいでした。でも、ダンは、この教会こそがほんとうの教会だとしんじていたので、つい

に、バプテスマをうけるゆるしをもらうことができました。

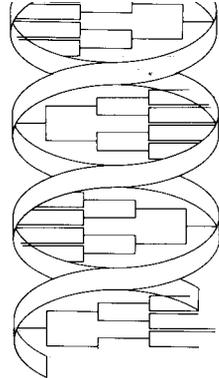
ダンは伝道部長に手紙を書いて、教会の本をおくってもらって、べんきょうしました。そして、お父さんにおねがいして、アメリカに帰る前に、スイスに立ちよってもらったのでした。

ダンはクリステンセン伝道部長といろいろなことを話したあとで、さいふから5ドル出して、伝道部長の前におきました。教会員になってから、45ドルはたらいたので、什分の一を4ドル50セントおさめなければならないのですが、もう50セントきふして、ちょうど5ドルにしたかったのです。

クリステンセン伝道部長が、だんじきけん金についてせつめいしてくださったので、ダンはその50セントを、だんじきけん金としておさめることにしました。伝道部長は、すぐに領収書をを書いてくださいました。ダンは、領収書に書かれたことばを読むと、さいふにしまいました。

ダンは、うれしそうに目をかがやかせながら、へやを出て、家ごとくのところへ行きました。ダンは、とうとうほんとうに、大すきなまつじつせいとイエス・キリスト教会の会いんになったのだとかんじました。





系図と遺伝学

教 会系図プログラムの最も素晴らしい副産物のひとつに、医学界への特別な貢献がある。

現在、系図図書館にある4代家族の記録ファイルを使って、ユタ大学医療センター、ユタ癌センター、およびユタ州立保健所慢性病対策事務局の研究員たちが、遺伝学的に見て病気にかかりやすい家族を調査する研究を進めている。

この種の研究が行なわれているのは、今のところユタ州だけである。それは、大勢の熱心な教員が系図表を作成し、医学的な研究に必要な第一段階をすぐに終えているからである。このため、研究員は医学的情報の収集のみに没頭することができる。その情報はコンピューターにかけて分析し、病気にかかりやすい家族を選び出せるのである。

研究チームの一員であるユタ医科大学内科助教授ロジャー・R・ウィリアムズ兄弟の話によれば、ユタ州で遺伝病理学の研究が開始されたのは、筋異栄養症と癌の研究資金が交付された1946年のことである。また研究員のひとり、エルドン・ガードナー博士は、癌にかかる危険率の高い189家族についての研究結果をまとめている。

ある時、遺伝学を専攻するひとりの学生が

ガードナー博士に、自分の叔母の中に乳癌にかかった人が数名もいると言ってきた。そこでガードナー博士がさらに詳しく調査したところ、悪性腫瘍またはその一步手前の腫瘍にかかっている女性がほかにも46名もいた。

ガードナー博士とその研究員たちは、別の家系についても、結腸ガンから歯や細胞組織の変異に至るまで様々な問題を引き起こす遺伝的要因のあることを突止め止めた。

1970年代の初め、大学医療センターの企画委員会の招待で、人口遺伝学者のマーク・スコルニック博士がユタ州の遺伝学研究の現状調査にやってきた。スコルニック博士は、ソルトレーク・シティの家族中心社会に深い関心を示し、系図資料に驚きの声をあげた。また、ホーマー・ワーナー博士とユタ大学やLDS病院の研究員たちが開発し、医療データの収集に使用している精巧なコンピュータ技術に深い感銘を受けたようである。

さらに国立保健協会からの援助資金により、4代家族のファイルがコンピューターに読み込まれることになった。また、それが、すでにコンピューター化されているユタ癌センターおよびユタ州立保健局の死亡証明書のファイルと連結されることになった。

名前と生年月日さえわかれば、コンピューターは30分の1秒の速さで750,000人の個人ファイルの中から該当者を捜し出し、次いでマスターファイルにある記録から先祖あるいは子孫の家族をすべて調べ出すことができる。次に研究員は、コンピューターを使って医学上のデータを家族と直結させ、家族がかかりやすい病気を割り出してゆく。このようなコンピューター分析が、最近では、29,747件の癌と41,187件の心臓発作に適用されている。

このようにしてわかった病気にかかりやすい家系の人で、それまでに主治医から詳しい医学検査を受けるように勧められていた人は少数しかいなかった。

ウィリアムズ博士は、こう語っている。「病気にかかりそうな家系の人を発見したら、特別に用意されたアンケート用紙に答えてもらい、直ちに健康診断を受けるように勧めます。心臓発作にかかる危険率の高い家族には、食事療法や運動の必要性について教え、場合によってはコレステロールを少なくする薬を与えます。この調査を病気の兆候があらわれるずっと以前の子供の頃から始めた方がよいこともあります。」

現在研究されている病気の中には、各種の癌、心臓発作、脳卒中、高血圧、血管、腎臓、心臓血管系の病気がある。

研究の大半は、まだ初期の段階であり、コンピューター分析もユタ州の住民に限られている。しかしこの研究がさらに進んでくると、正確な4代家族の記録を教会に提出している末日聖徒すべての健康状態が改善されるのも夢ではない。

さらに研究は系図探求の面からも大きな力となるはずである。「確率による組合せ」と呼

ばれるプロセスを通して、系図資料の不完全な箇所をたどって調べてゆくことができるからである。例えば、死亡証明書に記載されている死者の名前、死亡年月日および両親の名前があれば、たとえ両親の生年月日がわかっていなくても、その死者が系図表の中のどこに位置するかがわかる。そしてコンピューターは、同姓同名の夫婦の中から子供の両親と思われるような夫婦を捜し出す。このようにして、熟練した系図学者でも数カ月から数年かかるところを、コンピューターは数秒間で調べ出すのである。

だからと言って、問題が全然ないわけではない。ウィリアムズ博士は、笑いながらこう言った。「心配なのは、系図が不正確な場合です。それでも、このプログラムの長所は測り知れません。末日聖徒のような大家族の場合、病気の兆候となる遺伝子の動きは、より正確に見つけることができます。

これは特に非教会員の友人が指摘したことです。もうひとつの良い点は、家族の組織に関してです。

末日聖徒は、親戚がだれであるかよく知っており、親族全体の健康について深い関心を持っているため、予防対策を確実にこなうことができます。また、末日聖徒の教育水準が高く、そのため研究員同士の協力があつたこともよかつたと思います。

私たちこの研究に携わる者は皆、このような健康管理の分野において、私たちにしかできない独特の貢献ができる末日聖徒であることを心から誇りに思っています。

これからも、教会の系図部と協力して、コンピューターを主のみ業の発展に役立てていきたいと願っています。」

家庭貯蔵だより

穀物や豆類は、普通の植物油を塗っておけば、熱帯地方でも十分貯蔵をすることができます。ブリガム・ヤング大学の食物栄養学部のジョン・M・ヒル教授は、先頃ベンソン研究所の援助を受けて、南米のコロンビアの町カリーに6カ月間滞在し、栄養問題ならびに食糧貯蔵の問題を調査しました。

ヒル博士は、ICTA（国際熱帯農業研究センター）のアート・バン・シューンホーベン博士と協力して、油を使った穀物や豆の貯蔵法を研究してきました。また、伝道部長の要請で、コロンビアの教会員たちが熱帯地方に合った食糧貯蔵を実施できるよう援助してきました。

ヒル博士は次のように語っています。「ICTAが行なっている研究はまさに画期的なものです。穀物や豆類に油を塗ることは、各自の家庭でも簡単にできることだからです。」ICTAのバン・シューンホーベン博士は、植物油を塗れば、すでに穀物についている虫は死んでしまい、おまけに、それ以上虫がつかないということに気づきました。そこでヒル博士は油の成分を分析し、どの成分が虫に対して最も威力があるのかを調べました。そしてさらに虫の種類に応じて穀物にどれだけの量の油を塗ればよいかも研究しました。ヒル博士はこう述べています。「虫を駆除するのは、植物油の中に含まれているトリグリセライドとオレイン酸だということがわかりました。ところが、それがどういふ働きで虫を殺すのかははっきりしません。最初私たちは虫が窒息するのだろうと思っていましたが、実験を重ねるうちにそうではないことがわかってきました。つまり油の成分が何らかの働きで虫の新陳代謝を阻止し、そのために虫が死ぬので

す。しかも一度油を塗った穀物は二度と虫に食われることはないのです。」

さらに博士はこう語っています。「植物油を塗った穀物には、殺虫を目的とした燻蒸消毒やドライアイス処理、熱処理などをする必要がないのです。これは非常に簡単で、しかもどんな植物油でもかまいません。この方法は気候に関係なくどの地方でも行なうことができますが、特に害虫で悩む熱帯地方の人々の食糧貯蔵には画期的な方法と言えるでしょう。」

植物油を使った穀物の保存方法

植物油は（落下生、トウモロコシなど）どのような種類の植物油でもかまいません。まず穀物や豆をふたのついた容器に入れます。それに植物油を入れ、ふたをしてから、油が穀物にまんべんなくつくように容器を振りまわします。穀物がどっぴり漬かるほど油を入れる必要はありません。ただ表面に油がつくようにするだけでよいのです。油が穀物についたら、それを貯蔵用容器に移し替えます。

容器は油がしみ込まないように浸透性のないもので、湿気を防ぐ意味でも頑丈な容器がよいでしょう。油は確かに悪臭を発することがありますが、表面についているだけです。穀物や豆の味覚をそこなうということはありません。

この保存法は、特に熱帯地方の、豆類を主食としている地域で積極的に利用していただくと思います。例えばグアテマラでは、豆の価格変動が大きく、収穫期になると一気に価格が下がります。そこで各家族はこの収穫期に1年分の豆を購入し、油を塗って保存しておけば、1年間の食費の、約3分の2を節約することができるはずです。



バラムから学ぶ教訓

ブルース・R・マッコンキー



ひとりの予言者のことについてお話したい。

この予言者は、ある時期は偉大な人であった。しかし、生涯を閉じる頃は、「不義の実を愛し」、「自分のあやまちに対するとがめを」受けている。(Ⅱペテロ 2：15, 16) 他の時代の今ひとりの予言者は、(真実の偉大な予言をした時も含めて) 彼の行動を「狂気じみたふるまい」であると非難している。

これは実際にあった話で、教会員はこの話から偉大な教訓を学ぶことができる。この予言者は神にまみえ、啓示を受け、つるぎを手にした殺りくの天使に出会った。私たちの知る限り、このような予言者は歴史上にふたりとない。そのような予言者に、主がなぜみ言葉を伝えられたのかが、ここに詳しく述べられている。

その出来事を詳しく調べながら、以下の質

問に対する答えを搜してみたいと思う。主は、なぜこのような一連の不思議な出来事を許しておかれたのだろうか。(あるいは、主がそうなるようにしたもうたのではないだろうか。)

「不義の実」とは何だろうか。そのような予言者がどうして神のみたまを受け、しかもメシアの来臨という最も驚嘆すべき予言をはじめとする数々の偉大な真理を告げ知らせることができたのだろうか。

しかし、このような疑問よりもっと重要なことがある。それは、この古代の予言者が示した善い行ないと悪い行ないの中から、私たちはどのような教訓を学び取る必要があるか、ということである。

それでは、心を開き、この出来事が私たちに何を教えようとしているかに注意しながら、話を進めてみよう。初めに申し上げておきた

いと思うが、引用文のほとんどは聖書からのものであり、最後にひとつ末日の啓示からの引用がある。

この出来事はエリコの近く、モアブの平原で起こったことである。時は紀元前1451年。おもな登場人物はモアブの王バラクと、ミデアンの地からきた予言者バラムのふたりである。ちょうど、アモリ人の地を占領してきたおびただしいイスラエルの軍勢は、モアブの国境沿いに野営していた。モアブの民とその王バラクの心は、恐れと心配で動揺していた。自分たちもあのエホバの軍勢に滅ぼされ、殺されてしまうのではないだろうかと思ったのである。

そこでバラクは、「古い^{れいもつ}の礼物を手に」長老やつかさたちをバラムのもとに送り、彼を連れてきてイスラエルの民をのろってもらおうとした。長老たちはバラクの名前でこう言った。「エジプトから出てきた民があり、地のおもてをおおってわたしの前にいます。」

「どうぞ今きてわたしのためにこの民をのろってください。彼らは私よりも強いのです。そうしていただければ、われわれは彼らを撃つて、この国から追い払うことができるかもしれません。あなたが祝福する者は祝福され、あなたがのろう者はのろわれることをわたしは知っています。」

使いの差し出す富がほしくなったバラムは、彼らを泊めて、その晩、主にイスラエルの民をのろう許しを求めた。「神はバラムに言われた、『あなたは彼らと一緒に行ってはならない。またその民をのろってはならない。彼らは祝福された者だからである。』」

次の朝、バラムはバラクのつかさたちにこう言った。「あなたがたは国にお帰りなさい。主はわたしがあなたがたと一緒に行くことを、お許しになりません。」

そこでバラクは前よりも身分の高いつかさたちを大勢つかわした。彼らはバラムに向かってこう言った。「チツポルの子バラクはこう申します、『どんな妨げも顧みず、どうぞわた



しのところへおいでください。わたしはあなたを大いに優遇します。そしてあなたがわたしに言われる事はなんでもいたします。どうぞきてわたしのためにこの民をのろってください。』

しかし、バラムはバラクの家来たちに答えた、『たといバラクがその家に満ちるほどの金銀をわたしに与えようとも、事の大小を問わず、わたしの神、主の言葉を越えては何もすることができません。』

そうは言っても、バラクの差し出す富と名誉は捨てがたく、バラムは彼らを家に泊め、彼らと一緒に行ってイスラエルの民をのろう許しを下さいと再び主に願った。

「夜になり、神はバラムに臨んで言われた、『この人々はあなたを招きにきたのだから、立ってこの人々と一緒に行きなさい。ただしわたしが告げることだけを行わなければならない。』」

許しを得たバラムは、「ろばにくらをおき、モアブのつかさたちと一緒にいった。」

しかし次のことに留意していただきたい。主はバラムにつかさたちと一緒に行く許しを与えたが、聖典には続いてこう記されている。「しかるに神は彼が行ったために怒りを発せられ、主の使^{つがい}は彼を妨げようとして、道に立ちふさがっていた。バラムは、ろばに乗り、そのしもべふたりも彼と共にいたが、ろばは主の使が、手に抜き身のつるぎをもって、道

に立ちふさがっているのを見、3度も道をそれ、そのたびにバラムの足を石がきに押しつけたり、バラムの下にうずくまったりした。そこで、バラムは怒り、「つえでろばを打った。」

「すると、主が、ろばの口を開かれたので、ろばはバラムにむかって言った、『わたしがあなたに何をしたというのですか。あなたは3度もわたしを打ったのです。』

バラムは、ろばに言った、『お前がわたしを侮ったからだ。わたしの手につるぎがあれば、いま、お前を殺してしまうのだが』。

ろばはまたバラムに言った、『わたしはあなたが、きょうまで長いあいだ乗られたろばではありませんか。わたしはいつでも、あなたにこのようにしたでしようか』。バラムは言った、『いや、しなかった。』

このとき、主がバラムの目を開かれたので、彼は主の使が手に抜き身のつるぎをもって、道に立ちふさがっているのを見て、頭を垂れてひれ伏した。」

主の使いはバラムを叱責し、諭し、そしてこう言った。「この人々と一緒に行きなさい。ただし、わたしが告げることのみを述べなければならぬ。」

バラクはバラムを出迎えて、再び彼を「優遇」することを約束した。バラムは答えた。

「しかし、今、何事かをみずから言うことができましようか。わたしはただ神がわたしの口に授けられることを述べなければなりません。」

バラクは、バラムの要請に応じて7つの祭壇を築き、牛と羊を捧げ、そしてバラムもまた犠牲を捧げた。それは、イスラエルの民をのろい、モアブの王の差し出すもてなしを受ける許しを主に願うためであった。そしてバラムはこう言った。「主はたぶんわたしに会ってくださるでしょう。そして、主がわたしに示される事はなんでもあなたに告げましよう。」

神はバラムに会い、バラクに言うべき言葉を伝えられた。そこでバラムは、モアブのつ



かさたちの前でこう言った。「神ののろわぬ者を、わたしがどうしてのろえよう。主ののろわぬ者を、わたしがどうしてのろえよう。」

岩の頂からながめ、丘の上から見たが、これはひとり離れて住む民、もろもろの国民のうちに並ぶものはない。

だれがヤコブの群衆を数え、イスラエルの無数の民を数え得よう。わたしは義人のように死に、わたしの終りは彼らの終りのようでありたい。」

バラクは怒った。しかし自分の信仰を忠実に守り通したいと思っていたバラムはこう答えた。「わたしは、主が私の口に授けられる事だけを語るように注意すべきではないでしようか。」

それから彼らは、再び主に願ってみることにした。犠牲を捧げ、主に執拗に許しを請い願った。しかし主の答えは前と何ら変わらなかった。バラムは言った。

「神は人のように偽ることはなく、また人の子のように悔いることもない。言ったことで、行わないことがあろうか、語ったことで、しとげないことがあろうか。」

祝福せよとの命をわたしはうけた、すでに神が祝福されたものを、わたしは変えることができない。」

バラムはさらにこう告げた。「ヤコブには魔術がなく、イスラエルには占いが無い。神がそのなすところを時に応じてヤコブに告げ、



イスラエルに示されるからだ。」

そして不平を言うバラクに向かって、バラムは言った。「主の言われることは、なんでもしなければならぬと、わたしはあなたに告げませんでしたか。」

それでもなおバラクは、イスラエルの民をのろうようにバラムに求めた。そこでバラムはまたも、犠牲を捧げ、再び主に嘆願した。しかし主の答えは前と変わらなかった。「その時、神の霊が臨んだので」、バラムはイスラエルの民が偉大な力と権能を持つことを予言し、最後にこう結んだ。「あなたを祝福する者は祝福され、あなたをのろう者はのろわれるであろう。」

「そこでバラクはバラムにむかって怒りを発し、手を打ち鳴らした。そしてバラクはバラムに言った、『敵をのろうために招いたのに、あなたはかえって三度までも彼らを祝福した。』

それで今あなたは急いで自分のところへ帰ってください。わたしはあなたを大いに優遇しようと思った。しかし、主はその優遇をあなたに得させないようにされました。』

しかし主が命じられたことだけを言うしかないと思っていたバラムはこう答えた。

「わたしはあなたがつかわれた使者たちに言ったではありませんか、

『たといバラクがその家に満ちるほどの金銀をわたしに与えようとも、主の言葉を越えて心のままに善も悪も行ふことはできません。

私は主の言われることを述べるだけです。』」

そして、みたまを受けていたバラムは、偉大な予言をした。「わたしは彼を見る、しかし今ではない。わたしは彼を望み見る、しかし近くではない。ヤコブから一つの星が出、イスラエルから一本のつえが起り……」と。

そのようなバラムであったにもかかわらず、聖典にはバラムのことがこう記されている。

「バラムは、バラクに教え込み、イスラエルの子らの前に、つまずきになるものを置かせて、偶像にささげたものを食べさせ、また不品行をさせた。」(黙示2:14) それからしばらくして、バラムはイスラエルと戦ったミデアン人の野営地で殺された。

この一連の出来事は、民数22—25章、31:8; IIペテロ2:15—16; ユダ11; 黙示2:14に記されている。

何ということであろうか。ここにひとりの神の予言者がいる。彼は当初主が告げることしか述べないという堅い決意を持っていた。しかも自分が歩んでいる道に一点の疑いも持っていないように思われた。主の代表者として、家に一杯の金銀も、高い名誉も、彼が仕える神の示された道に忠実に従うという彼の決意を揺るがすには至らなかった。

しかし、彼はやがて富と名誉のとりこになってしまった。すでに持っていた予言の力のほかに、富と権力をほしきままにすることができたらどんなに素晴らしいかと思えるようになったのである。

彼は標準を下げ、福音の証のほかに、この世の繁栄と権力を手に入れようとした。その時、主は彼のなすままにさせておきたもうた。言うまでもなく、彼はこの福音が真実であることをよく知っていた。しかしなぜ王が差し出した富と名誉を最後まで断わり続かなかつたのだろうか。

思うに、現在の教会員も教会からはっきりとした指針を与えられていながら、バラムのように何度も執拗しつように世の報酬を求めることがある。そのような時、もしおまえが億万長者

「見よ、召さるる者は多けれども選ばるる者は少し。選ばるることなきは、これそもそも何の故ぞ。

そは、人々の心甚しくこの世に属けるものの上にあり、唯々人間の譽を得ることをのみ望み、次の如き一つの戒めを知らざるによる。

曰く、神権の権能は天の能力と固く結びつきて離るべからざるものにして、天の能力は正義の原則によりてのみ支配し運用し得るものなり、と。
(教義と聖約121：34—36)

になっても、あるいは世の譽れを得ても、主に仕える気持ちを失わないようであれば自分の思うままにしないで、という答えを与えられるであろう。しかし、そのような許しを得たとしても、私たちが神の王国のことを第一に行なう時ほどうまくいくはずはないのである。

不義の報いは何であろうか。教会の教えに逆らって世の物を求めることは不義ではないだろうか。

かつて強く揺るぎない証を持っていた人が、富と権力のためにその判断を歪められ、この地上における主の目的とみこころに反する行ないをするようになったという例を、皆さんは御存じであろう。

あの予言者バラムのように、かつては神から靈感を受け、主の道を雄々しく歩んでいた人が、永遠の富を見失って、この世の富に目をくらまされ、身も霊も滅ぼしてしまったという例は、枚挙にいとまがない。

福音に証を持っていながら、この世の物に心を奪われている人々に対して、ジョセフ・スミスは次のような靈感された言葉を残している。この言葉には、私たちにあって真の宝となる教訓が含まれている。

「見よ、召さるる者は多けれども選ばるる者は少し。選ばるることなきは、これそもそも何の故ぞ。

そは、人々の心甚しくこの世に属けるものの上にあり、唯々人間の譽を得ることをのみ望み、次の如き一つの戒めを知らざるによる。

曰く、神権の権能は天の能力と固く結びつきて離るべからざるものにして、天の能力は正義の原則によりてのみ支配し運用し得るものなり、と。

この権能のわれらに与えられる事もあらんは真実なり。されどもし己が罪を蔽いかくさんとし、われらの高慢、空しき野望を充たさんと企て、または幾分にも正しからざることによりて人の子らを支配し、統御し、強制せんとする時は、見よ諸天は退き去り、主の『みたま』悲しむ。主の『みたま』退き去らば、神権またはその人の権威は終りなり。

見よ、その人いまだ覺らざる前、独り置かるるままにとげあるむちをけり聖徒を迫害し神に叛きて闘をなす。……

これすなわち、召さるる者は多けれども選ばるる者少き所以なり。」(教義と聖約121：34—38, 40)



問題を前に、恥じてはならない

テリー・J・モイヤー

ジョン・サリンジャーは、参考資料リストの裏に宿題の内容を手早くメモしていた。「レポート3枚、5日提出、世界の食糧危機について、参考資料を読むこと」

ベルが鳴り、ジョンは廊下を食堂へと急いだ。

それからモルモンの学生たちのたまり場になっている席にすわると、ジョンはみんなに尋ねた。「パーキンス先生は、世界の人口と食糧危機について君たちにも宿題出したかい？」

同じ宿題が、ジョンの政治学の授業だけでなく、カミオの経済学のクラスや、ジュリーの歴史のクラスでも出されていた。「この3年間、1学期最低1回は、どの先生かがこれと同じ宿題を出していらっしやるみたい。過剰人口か、それでなければ墮胎か食糧危機ってとこよ。」リサが言った。

「その上、リストに載っている参考書の結論はもうわかっているわ。世界の人口は多す

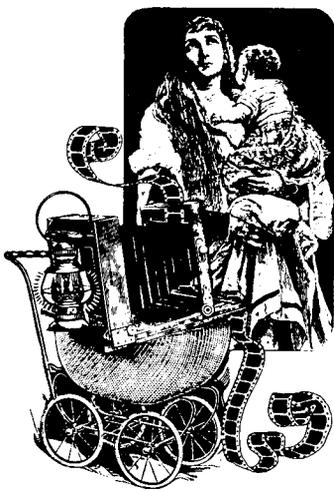
ぎる。子供の数を減らすべきだ。人口増加を食い止めるために墮胎が必要である。食糧も不足しているってことでしょう。私にはとてもそんなこと信じられないけど……」ジュリーも言った。

ジョンが言った。「ぼくらは少し先生のこと悪く言い過ぎるんじゃない。パーキンス先生もほかの先生も、このことに関心があるから宿題に出すんだと思うよ。先生たちの中にも教会が教えてることに賛成している人が大勢いるはずなんだ。」

「そうかもしれないけど、ジョン、先生の意見が教会の教えと違っている時は、どうしたらいいの？」リサが尋ねた。

この若者たちのやりとりはなかなか興味深い。教師の意見が教会の方針や指導者の言葉、それに聖典と食い違うことはよくある。

「それじゃ、モーガン先生のところに相談



に行こうよ。モーガン先生はこの学校で長いこと教えているし、監督とセミナー教師をしているから大丈夫だと思うよ。」ジョンが言った。

モーガン監督はこう言った。「君たちの問題はよくわかるよ。でもちょっと違うような気がする。君たちは、パーキンス先生があげて下さった参考資料だけを使って、しかもその本の著者と同じ結論にならずにちゃいけなそうと思込んでいるようだね。」監督はさらに続けた。「ほかの参考書もどしどし使ったらい。そして別の考え方を述べ、自分で調査、研究した結果、違った結論にたどり着いたのだったら大いに結構じゃないか。」

「でも、教会の教えを支持している本なんたありますか。」リサが尋ねた。

モーガン監督は答えた。「たくさんあるよ。異論のない学問なんて、あるものじゃない。同じデータを使い、まじめに熱心に研究しても、様々な結論が出てくる。そしてその結論を裏づけるために論文や本を出しているわけだ。

ある科学者は、世界は40億で飽和状態になると言うし、別の学者は40億、50億、100億になっても十分生活できると考えている。

社会学者の間では、一番複雑な人間に関する問題だけに、意見の相違はもっと大きいと思うよ。だからそんなふうになるっきり相反する意見が出てくるわけだ。簡単な答えなど

ありはしない。

幸いなことに、私たち末日聖徒はそのような論争にどう対処したらよいか、真理が啓示されていることを感謝しなくてはいけないと思うよ。しかも末日聖徒以外の学者たちの中にも、主の啓示と一致した主張をする人が大勢いる。問題は君たちがそのような論文の中からどれを選んで宿題をまとめるかということじゃないかな。」

それから3週間ほど、ジョンとジュリーとカミオは猛勉強した。3人でパーキンス先生から提案された参考書をすべて丹念に読み、大学図書館や公立図書館へも何度か足を運んだ。

また社会福祉施設や政府の役所に問い合わせ、役に立ちそうな参考資料や統計を集めたり、いろいろな先生に相談したりした。

このようにして教会の立場を明確な裏付けのもとにまとめあげた。論文は、非常に高く評価された。そしてクラスで研究発表をし、他の学生たちとの間で質疑応答を行なった。よく準備していたので、学生たちの質問にも堂々と自分の信念を説明することができた。

何にも増して彼らが学んだ大切なことは、難しい道德の問題に教会は正当で明確な理由を持って取り組んでいるという事実を知ったことであつた。また、十分な調査を行なっていれば、たとえ意見の相違はあつても、ちゃんとした人は認めてくれることもわかつた。さらにイエス・キリストの福音はどれひとつをとって見ても、必ず真理と調和することも知ることができたのである。

あるひとりの少女が提出したレポート

1975年、当時高校1年生のジェネル・グリフィンが宿題で人口爆発のレポートを書いて提出した。そして、そのレポートがきっかけとなって、フィルムストリップ「確かに生きている」(VVOF 1420 JA)が作成されることになった。

現在、ユタ州バルバード・ステーク部のバウンテフル支部に属するジェネルと父親のグ

レン・グリフィン博士は、家族の写真を撮り、その中から何枚かの写真を選んでスライドを作成した。それにジェネルと父親で書き上げた墮胎反対のナレーションを付けた。このフィルムストリップを発表した時、教師や生徒は人間の命の尊厳をうたったこの作品に熱烈な拍手を送ったのである。このフィルムストリップを見た人は、これを末日聖徒の青少年全員に是非見せてほしいとロクに語った。その後何度か編集し直されて、今このフィルムストリップは、17カ国語に翻訳され、世界中の人々が見ることができるようになっている。



あなたはどうか

求む：隣人への奉仕に燃え、以下のことを行なってノーベル賞を獲得しようとする気概のある末日聖徒の青少年。

1. ネズミ駆除法の開発。これが開発されれば、地域によっては、食糧の供給率を25パーセントも上げることができる。ただし、人口密集地域でも技術的に安全であること。
2. 安価な経費で海水を真水に転換する方法の開発。開発が成功すれば、海に近い砂漠を農地に変えることができる。(ヒント)—太陽熱の利用
4. 発展途上国における食物の腐敗予防対策。これにより、食物の無駄をなくし、同時に多くの人々の食糧を供給することができる。
5. 使い捨てのエネルギーの代用として、どんな地域でも可能な太陽エネルギーの利用法。
6. 海洋食品資源を廉価に広範囲にわたって開発利用する手段の発明。

そのほか大気から灌漑用水を抽出したり、新しいエネルギー源を発見すること、食糧の収穫、加工、包装、運搬などの方法を改良すること、砂漠農法や南極、北極の氷の利用法の発見など、様々な分野の研究で末日聖徒の若者が賞を得ることも夢ではない。

世界には飢えに苦しむ人々がいることも事実である。確かに問題は数多く残されている。

そこで、シオンの聡明な若者たちが共に集まって問題解決のための研究に加わることができるとはならずである。私たちは神の姿かたちにかたどって創造された、聖なる天父の子供である。私たちはどんなに困難な問題でも解決できるはずである。

主は予言者ヨエルを通してこう言われた。「その後わたしはわが霊をすべての肉なる者に注ぐ。あなたがたのむすこ、娘は預言をし、あなたがたの老人たちは夢を見、あなたがたの若者たちは幻を見る。その日わたしはまたわが霊をしもべ、はしために注ぐ。」(ヨエル 2：28—29)

解決法はある。どんなに困難な問題でも解決する方法は必ずあるはずである。偉大な発見は幾多の労苦と失敗のすえに得られるものである。靈感を受けていながら、気がつかないということもある。

ジェームズ・ワットが蒸気機関を開発すること、またその後重要な変革が続くことを、1750年にだれが予期できたであろうか。ここ100年間の電気学の進歩を、1870年にだれが予想できたであろうか。また、最初の人工衛星が打ち上げられた1957年に、わずかに12年で月に人類が立とうとだれが信じ得たであろうか。

次は何であろうか。才知あふれるひとりの末日聖徒の若者を選び、彼に教育を施し、問題解決の決意と探究心を与え、みたまの声に

聞き従う敬虔な態度を植え付けてみよう。その若者が数百万人の人々を養う手助けをする日がいつか来ることだろう。

飢える人々がいるのはなぜか

問：世界の人口の実態はどうか。

答え：世界の人口の40億を5人ずつのグループに分けて合衆国の土地を分割すると、5人から成る各グループごとにほぼ1ヘクタールの土地を持てる計算になる。そうすると、カナダ、メキシコ、中央アメリカには住む必要はなく、ヨーロッパ、アジア、アフリカ、オーストラリア、その他にも人は住む必要はない。過疎と過密の差はあるにしても、それで世界の人口が過剰だとは断言できない。(世界の人口は現在40億、合衆国の面積は9,399,317平方キロメートル。1平方キロメートルは100ヘクタール)

問：40億人を養うだけの食糧はあるのだろうか。

答え：ある。ここ何年間も、食糧増産の方が人口増加よりも先を行っている。

問：それなのにどうして飢えている人がいるのだろうか。

答え：幾つかの理由が考えられる。

1. ある地域、特に発展途上国では、食糧の配給が非能率的である。
2. 現在の収穫方法では多くの無駄がでる。

(機械による収穫では畑に作物の25パーセントが取り残されていると言われている。現在の労賃の高さを考えると、取り残したものを収穫しても経済的に合わない。しかも無駄にしたものの大半はまだ熟していないものか、熟し過ぎたものか、あるいは畑の隅で機械が行き届かないために収穫できなかったものである)

3. 梱包や保存の不手際でだめにするものも多い。
4. ネズミもぼう大な食糧を食いつぶしている。(National Geographic「ナショナル・ジオグラフィック」1977年7月号には、「インドでは、貨車を4,800キロ連ねた分の穀物がネズミに食べられている」と記されていた)
5. 非能率的な農業技術のために、土地当りの収穫量が少ない。
6. 耕作地の多くが、タバコ、阿片、酒の原料などの栽培に当てられている。
7. 地域によっては、政府が意図的に(あるいは意図しない場合もあるが)農民に減産を奨励している。
8. ある地域では動物蛋白を生産するために数倍の植物蛋白を投入している。

現在、どのような研究が進められているか

ユタ州プロボにあるエズラ・タフト・ベンソン研究所の第一の目標は、世界各国の人々に食糧自給の道を開くことである。3年前に設立された同研究所は、デロス・エルズワース博士の下で、食物、栄養、農芸、食糧貯蔵の広範な研究を行なっている。

これまで狭い土地での食糧生産、熱帯地方における食糧貯蔵、家庭貯蔵向き食品の開発、高生産性農法の開発などの研究が行なわれ、そのほかにも数多くの研究が計画されている。

飢える国々への救援活動に参加している教会員は、どの位いるかと聞かれて、エルズワース博士は、2,000名以上の食品・農業科学者名簿を見せてくれた。確かに、教会と教会員はこの問題に重大な関心を抱いているのである。



父の言葉

ユタ大学名誉教授，元科学振興協会会長

ヘンリー・アイリング



私にとって、この福音の本質は「試しの原理」である。救い主は私たちに、「この教が神からのものか、それとも、わたし自身から出たものか」(ヨハネ7：17)み言葉を行なって試してみるようにと言われた。

これは、科学の本質でもある。実験と証明の原理である。それが科学を科学たらしめる手順であり、私たちが科学者であると同時に末日聖徒でもある所以である。

かつてある人に、「ヘンリー、あの人を見たまえ。君の教会の人だ。良くないねえ」と言われても、大してそれが気にならなかった

のは、そのためである。その時、私はうなずきながら、ひと言こう付け加えた。「もし福音がなかったら、彼はどうなっていたと思うかい。」

福音は、うりのつるになすをならせることはできないかもしれないが、従う人を必ず前よりも立派な人間にする。私はそれを実際に試してみた。そして十分な成果を得てきた。

宗教は啓示に基づくものでなければならぬと、私は思う。大いなる神の撰理というものがあって、私たちに関心と憐みを寄せ、心を通わすことのできる神がおられるという考え

を、私はどうしても否定できない。

人から「神の存在を証明して下さい」と言われると、私はその人の真意をはかりかねる。恐らく論理的に証明してほしいというのであろうが、正当な論理でも必ず正しい結論が出るとは限らないのに、真理を論理だけで立証しようとしてもそれは不可能なことである。

中世に、地球は平らだと考えた人々がいた。彼らにとってはそれは完全な論理であった。しかしたとえ彼らの論理が完全だったとしても、それは間違っただけの仮定の上立つものであり、従ってその結論は間違っただけなのである。

宗教でも科学でも本当に重要な問題においては、正しい仮定のみが信頼し得る結論を導き出すということである。

仮定とは、世に対して私たちが抱いている信念であり、それらは自分あるいは他人の経験や体験の中から生まれてくるものである。

もし私に自分の信念について、あるいは自分の持っている仮定について話せと言われれば、この宇宙には至高の英知なる神がおられるということから話を切り出すであろう。これを非論理的だと言え人はだれもいないと思う。せいぜい異議を唱えるだけである。

どうしてこういう結論に至ったかと聞かれれば、私は「自分の経験や他人の体験から」と答えるであろう。パウロやジョセフ・スミスが体験したこと、そして驚異的な科学の法則が日に日に発見されていること、それを考えてみると、「その裏にあるものは何か」と問わずにはいられない。もちろん、人はそれぞれこの問いに対して自分なりの答えを持っていると思う。

私の結論は礼拝すべき至高の英知なる神が存在するということである。つまり、この宇

宙の中で最も知恵ある御方である神は愛情深く、私の心の奥底を知っておられると信じているので、私は今後も祈り続けるであろう。

ある人々は、世に不正が存在することこそ神のいないことを立証するものであるというが、私は反対に慈悲に富む正義の神は死後の世界であらゆる不公平を修正されると考える。

どうしても、私は科学に用いる実験や証明の方法、考え方を、自分の信仰についても当てはめて考えてしまう。

ここで自分の若い時のことを少し申し上げたい。1919年9月のある金曜日の夕方のことであった。私はアリゾナ州のピマで、一日中干し草の運搬を手伝っていた。暑い一日で、水ががぶ飲みしていたのを今でも覚えている。月曜日からは、鉱山工学を勉強しているアリゾナ大学の授業が始まるので、大学へ戻ることになっていた。その金曜日の夕方、私の父は世の父親が行なうように、息子に最後の言葉を残したいと思った。父は私に、いつも正しい生活をしてほしいと願っていたからである。父はこう言った。「ヘンリー、こっちに来て腰かけないか。話したいことがある。」

私は干し草を積む仕事の手を休めると、父のわきに腰かけた。

「わしらは親友みたいなものだったなあ。」

「はい、ぼくもそう思います。父さん。」

「ヘンリーとは、並んで馬に乗り、一緒に畑仕事もした。ふたりとも互いに気持ちはよくわかっていると思う。そこで、おまえにひとつ言っておきたいことがある。父さんは、主が予言者ジョセフ・スミスを通して教会を回復されたことを信じている。父さんにとって、それは事実以外の何ものでもない。今だからこれに疑ったことは一度もない。もち

ろんまだわからないことはいろいろあるが、この教会では、真実でないものを信じる必要はない。おまえはアリゾナ大学へ行って、学べることはすべて学びなさい。真実なことは何であっても福音の一部なのだ。主は実際にこの宇宙を動かしておられる。主が予言者ジョセフ・スミスに靈感を与えられたことを私は堅く信じている。それから、もうひとつ言いたいことがある。おまえは大学に行っても神を冒瀆するような行ないをせず、善良な人々と楽しく交わりなさい。また、教会に行くと、私たちがこれまで行なってきたようなことをしてほしい。そうすれば、父さんはおまえが主から離れているのじゃないかなどと心配しなくてすむ。」

あれからもう60年になる。私はすべての問題に答えられるわけではない。事実、そのような人間はいない。しかし、神が実在し、その神がパウロを聖徒の迫害者から歴史上最も立派な宣教師のひとりに変えられたように、予言者ジョセフ・スミスを通してこの福音を回復されたことを私は今でも信じている。なぜパウロを選ばれたのであろうか。主が彼を必要とされたからである。そのために主は彼を使われたのである。

そして主が、パウロと同じように予言者ジョセフ・スミスに現われたもうたのはなぜであらうか。ひとつの理由は、ジョセフ・スミスは人の言葉に耳を傾けるといって卓越した能力を有していたからである。世の中には賢い人が大勢いる。しかし、利口すぎて耳を貸そうとしない人たちが多し。回復された教会を築いてきた人々に共通する素晴らしい特性は、彼らが皆謙虚に耳を傾ける気持ちをもっていたということである。これは私たちに

にとって非常に大切なことである。神はそのみ業を成し遂げるために私たちを利用されるが、そのためには耳を傾ける態度が必要である。

私は福音の中で一番大切な教えは、神が私たちに語られるということであると考えている。私たちが謙遜になって正しい態度で主に祈るならば、主は私たちの英知に直接語りかけて下さるのである。

もしイエスが命じておられるように実際に試してみても、啓示を与えて下さる全知全能の主が、みこころにかなう人に語りかけて下さるという私が抱いていた仮定をあなたも持つことができるならば、あなたは科学的な方法を用いて自分を神に近づけることができたと言えることができる。

科学には限界があるということ、私たちは謙遜になり、聴く耳を持つようになることができる。もしそのような目的のために科学が役立つとすれば、科学はきわめて重要であると言えるのではないだろうか。

結論を申し上げれば、この福音は私たちに救い主のみ言葉を試してみても、科学者が理論を組み立てる時のように、まず予想を立て、計算し、予想と比較し、何が真理という結論に到着するようにしなさいと教えている。

私はそのようにして、この福音が真実であること、至高の英知を持ちたもう神が存在すること、しかも神はその子供たちを心にかけ、語りかけ、さらにはジョセフ・スミスに語り、そして今も人々に語りかけておられることをはっきりと知ることができた。

これは、歴史の変遷の中で幾多の偉大な人が信じ唱えてきた教えであり、そして今もなお大切な教えとして存続している教えなのである。

イエス・キリストの回復された福音を、讃美歌の調べにのせて伝えるモルモンタバナクル合唱団の日本公演も一カ月後に迫ってきました。

世界中の多くの人々から愛されるその歌声がソルトレーク・シティから聞かれるようになって、すでに125年以上の歳月が流れました。

モルモンタバナクル合唱団を構成する300余名の団員はこの間、時代と共に変わってきましたが、一人一人の福音に対するひたむきな心と福音への献身は常に変わることがありません。団員がそれぞれ自分の職業をもって活躍していることも合唱団の特色のひとつとしてあげられます。

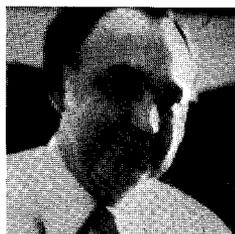
今回、その団員の幾人かに、本誌記者がお会いする機会がありましたので、来日を前にした喜びの声をお聞きしてみました。()内は職業、所属年数、パート。

》日本の皆様へ《

“私はモルモンタバナクル合唱団の団員となってから約7年になりますが、今回、美しい日本の国で公演できることを非常にうれしく思っています。”

ジョンソン姉妹

(ユタ・カウンティ保険局勤務。約7年。ソプラノ)



“9月に合唱団の一員として日本に行けることを心から喜んでいます。日本の皆様とお友達になれることをほんとうに楽しみにしています。”

ランドクイスト兄弟

(コンピューター関係の会社経営。30年。ベース)

“私の次男は東京で伝道しました。また私の友達の子供たちも日本で伝道しました。ですから日本に対しては特別な親近感をもっています。そのような日本へ行くことを心より感謝しています。”

テーラー兄弟(弁護士。5年。セカンドテナー)





“非常に素晴らしい国に、これから行くことができますのでとても光栄に存じます。そして日本の方々にお会いできることをほんとうに楽しみにしています。”

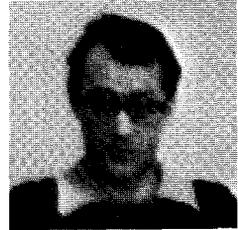
キング兄弟

(ブリガム・ヤング大学教授。2年。セカンドテナー)

“日本の国の戦後の復興は、非常にめざましいものがあります。私は今、日本を理解するために友達と一緒にソルトレーク・シティまで、日本語を習いに行っています。日本に行ける日を心待ちにしています。”

クヌードソン兄弟

(ユタ州福祉事務所勤務。約2年。トップテナー)



“2年ほど前から日本での公演の話はありましたが、今回やっと実現の運びとなり、うれしさでいっぱいです。今までタバナクル合唱団の一員としていろいろな国を訪問しましたが、また日本でも歌を通して福音を伝える機会があることを心より感謝しています。”

ボイド兄弟 (BYUにて音楽教師。5年。セカンドテナー)

“私の喜びはもういっぱいです。日本には良い音楽を好まれる方がたくさんいらっしゃいますので、きっとモルモンタバナクル合唱団は日本で喜ばれると確信しています。”

今までいろいろな国で公演いたしました。次に私たちが訪れる国は日本をおいてほかにはないと思っていました。また日本は人口も多く、そこに住む人々は教養が高く、文化的に高い水準を持っています。モルモンタバナクル合唱団が日本に行く理由はそこにあったと思います。”



ウォールベック姉妹 (主婦。2年。ソプラノ)

写真は8ミリフィルムより複写しましたので不鮮明ですが、その旨ご了承下さい。

教会の発展に寄与する コンピューター

レイ・H・ルイス、リネイテ・ルイス兄弟姉妹が最近、ふたりの娘アンドレアとハイジエーを連れてカリフォルニアへ引っ越してきた。そして、バレー・フォージ・ワード部の日曜学校へ出席したところ、早速ワード部書記のジョセフ・A・マックイーン兄弟に呼び止められた。マックイーン兄弟は、すぐに教会の本部に彼らの会員記録の送付請求を出すことにした。

十二使徒評議員の訪問予定計画を担当しているドゥモンテ・クムズ兄弟は、1,000を上回るステーキ部、それに地域大会を訪問する教会幹部の予定を組まなければならない。

また福祉事業部のラリー・リチャーズ兄弟は、断食献金や監督の倉庫の在庫状態、養子縁組数など、いつも最新の情報を入手しなければならない。

このような複雑な事務を容易に処理する機関がある。それが、ソルトレーク・シティーにある教会のコンピューター・センター、管理システム機関(MSC)である。このセンターの副製作部長を務めるメルビン・M・ファー兄弟はこう語る。「私たちの目的は、教会に可能な限り最新の情報を提供することです。」



この管理システム機関には大型コンピューター、IBM370/168が設置されており、200箇所のターミナルから送られてくる情報を処理して、同時に16箇所の利用者に必要な情報を提供している。その速さは、モルモン経に記録されているすべての情報を4秒以内で読み上げてしまうほどである。

現在、このMSCは教会のあらゆる部門、十二使徒定員会、系図部、財務部、教会教育部、総合施設部、資材管理部、情報管理部、監査部、歴史記録部、広報部、人事部、福祉部、伝道管理部、そのほかに利用されている。

情報管理部のポール・E・コエリケル兄弟は、情報管理部だけでも合衆国とカナダにあるワード部や支部から毎日1万1千件にのぼる記録の請求あるいは変更通知が送られてくると言っている。(ちなみに合衆国とカナダの教会員数は、全教会員数410万の77%に達している)「会員記録請求の情報は、コンピューターで速やかに処理され、新しい情報が記録されて1週間以内に郵送の用意が整います。」コエリケル兄弟は、3月の1ヵ月間だけで会員記録の変更があったのは26万件にのぼると述べている。この数字は、単に教会の発展だ

けでなく、教会員の移動が驚くほど頻繁に行なわれていることを物語っている。

系図部のシステム開発に携わっているメルビン・E・オルセン兄弟は、系図部が大々的にコンピューターを導入し始めたのは1962年以降です、と語っている。しかし、その年に神殿活動のために名前を処理できたのは、150万件に過ぎなかった。

ところが2年後にこの教会コンピューター・センターが設立されると、系図部が真っ先にそれを利用し始め、「現在では毎年、400万人の名前をエンダウメントのために提出しています。そして、今後2年以内に、その数は800万に達すると思います」とのことである。

教会系図部は現在、世界最大のコンピューター化された系図ファイルを持っている。その中には、5,000万人以上の人々の情報が記録されている。

教会の発展に伴い、その管理運営を迅速かつ能率的に行なうことが必要になってきた。コンピューターの開発はまさにそれに対応するものである。このように、コンピューターは現在、陰の力として教会の発展に貢献し、寄与しているのである。

資料：チャーチ・ニュース(6月2日付)

急増するバプテスマ

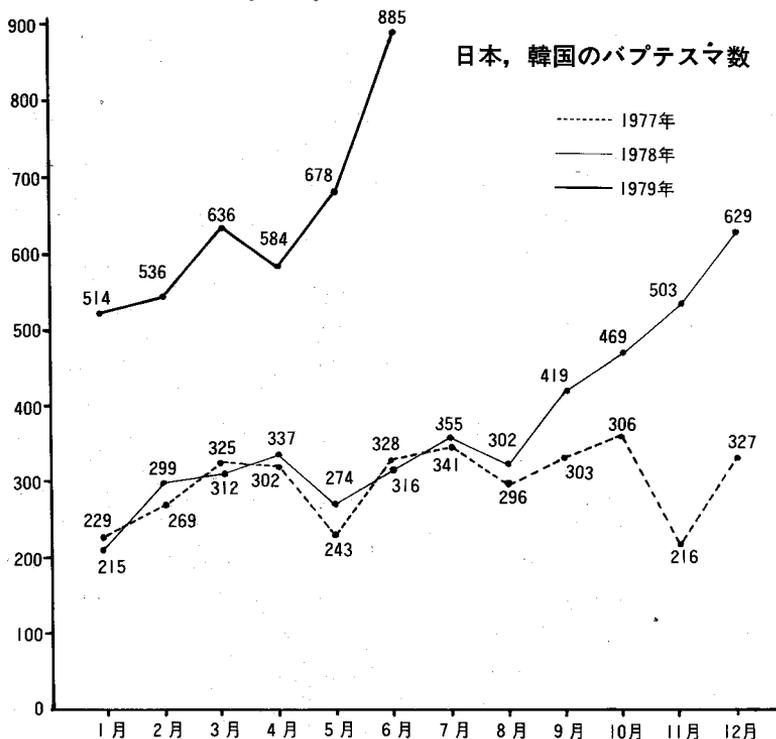
「而して汝らもし生涯今の世の人々に向いて悔改めを叫ぶことに力を尽し、唯一人の人たりともわれに導かば、わが御父の国に於て彼と共に汝らのの悦びは如何ばかりぞや。」(教義と聖約18:15)

下の表を見ても明らかなように、最近、非常に多くの人々がバプテスマの水に入り、このイエス・キリストの真の福音に改宗しています。それも、若人だけにとどまらず、家族の改宗者も急激に増えています。

そこですでに福音を受け入れて生活している私たち末日聖徒は、以前にも増して、個人と家族の備えを充実させ、新しい会員たちにとってよい模範となる必要があると思います。

「またかくの如く、わが永遠の誓約を世に遣りて世の光となし、わが民とこの光を求め来る異邦人のために一つの旗となし、わが前に道を備えるためわが前に立つ一人の使となしたり。」(教義と聖約45:9)

そのためにも、新しく改宗した教会員の方々をよくフェロウシップし、彼らがこの福音生活の中で喜びと満足が得られるように助けることが今一番大切なことではないでしょうか。

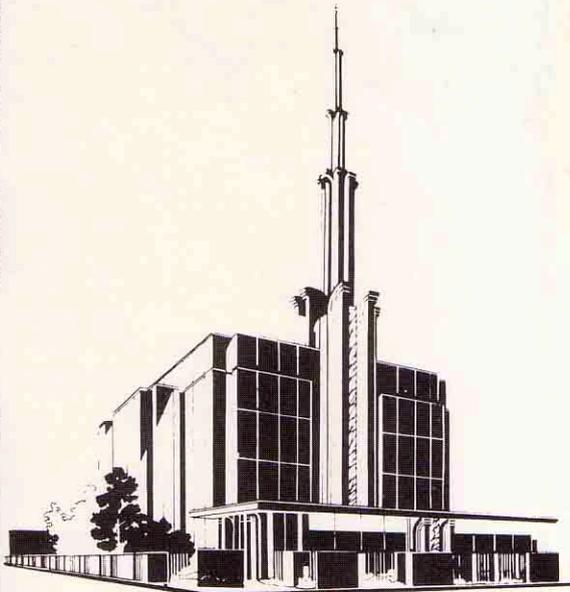




東京神殿， 外装工事に入る

東京神殿の建築は現在、鉄骨組みもほとんど終わり、外装工事が始まっています。また神殿のシンボルともなる塔部分の組み立ても進められ、少しずつ、神殿の様相を呈してきました。

来年の秋にはオープンハウス、さらに献堂式が予定されています。



(完成図)

写真説明

(上) 有栖川公園より (中央) 正面より
(下) 東側より、それぞれ撮影

